

太宰府市地域福祉に関する分野別課題調査（高齢者福祉分野）

集計結果

●調査概要

○回収結果

配布件数（件）	回収件数（件）	回収率（％）
203 件	124 件	61.1%

※以下、回答内容については、調査票にご記入の表現をそのまま使用させていただいております。

※回答内容に応じて分類わけを行い、件数を併記しておりますが、重複する分類もあるため、回答数と件数は一致しない場合があります。

I. ご高齢の方の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 高齢者のみの世帯や引きこもり、孤立について（48 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・独居高齢者に対する支援（例）子どもたちが遠方でなかなか来れない
	解決策	・家族間で今後どのようにしていくかを話す機会を持つことが大事。
2	現状・課題	・同居しているが孤立している（例）嫁などと仲が悪い
	解決策	・双方とも同居を考えるとときから仲良くできるよう努力することが必要だと思う。
3	現状・課題	・新型コロナで同居していない家族が来られなくなっており、日常生活が停滞している。
	解決策	・「地域見守り隊」などを結成して定期的に巡回してほしい。
4	現状・課題	・ひとり暮らしで認知症のある高齢者。
5	現状・課題	・子どもがいなかったり、頼る親戚がいない高齢者が病気になったときに、入院治療が必要になったときに、治療方針の同意や決定、死後のことを手続きを代行してくれる第三者の機関・組織がない。または、身近にない。
	解決策	・NPO 法人で、このようなことをしてくれる組織があるところもある。

他多数

2 サービスの利用や介護保険制度について（18 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・介護サービスを受けたいと思っても受けることができない。どのように（手順）すると受けることができるのかわからない。 ・高齢者自身が必要だと思っていない。必要と感じていない。
	解決策	・介護サービス利用までの流れがわかるような場所、気軽に行ける場所の提供、パンフレット作成・配布。
2	現状・課題	・訪問介護事業の人手不足などが原因で、要支援者に対するサービス（特に家事支援）の受け入れ先が不足している。
	解決策	・シルバー人材センターが行っている高齢者支援サービスのような、要支援者を対象としたサービスをほかにつくることできないだろうか？（例：有償ボランティアなど）

NO.	内容	
3	現状・課題	・医療や介護が必要な状態にあっても、人の関わりがなかったり、自ら関わりを拒否して公的なサービスを利用することなく、その状態が悪化していることがある。
	解決策	・早期に医療や介護を受けられるように早い段階で支援ができる体制づくりや地域や行政、関係機関とが協力して支援を行うことが必要である。
4	現状・課題	・核家族化が進み、キーパーソンになる方が近くにおらず、日常生活の中で不便なことが生じても解決できないことがあると思う。
	解決策	・もっとサービスについて知っていただきたいし、利用することに抵抗を感じないようになると良いと思う。
5	現状・課題	・正確な介護認定を受けられていないため、正しいサービスを受けられない。在宅生活を維持するためのサービスを受けるにはお金がかかる。
	解決策	・地域包括ケアシステムを充実させる。

他多数

3 認知症や成年後見について（11件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・高齢になるにつれ、日常生活の中で知らず知らずのうちに物忘れなどの症状から認知症が進行している場合が往々にしてある。
	解決策	・家族や周囲が早めに気付いて早期受診をすすめる。
2	現状・課題	・認知症や身体の麻痺などにより、日常生活ができなくなる。家族や周囲の負担が増える。健常人からのサポートが欠かせない。
	解決策	・接し方がわからない人が多いので、学校や地域でのイベントでみんなで支えれば何とかなると安心感を感じることができるよう伝達していくこと。
3	現状・課題	・認知症、独居または夫婦世帯で子どものいない高齢者が増えている。
	解決策	・成年後見人制度の周知をする。
4	現状・課題	・身体介護を必要とされている方以上に認知症の方が増加されているように思います。 ・特に介護度2～3の歩行などは問題ない方、または若干支障がある方（歩行器、杖を使用）の徘徊は、目が離せないためその分人員を割かれてしまいます。
	解決策	・日常的な下肢筋力低下防止の取り組み、施設職員を増員するなどの解決策が考えられると思います。
5	現状・課題	・独居高齢者で地域や親族とつながりが薄い人（孤立化）。
	解決策	・公的機関だけではなく、地域からの根気強い見まもりのアプローチの継続。

4 交通手段、買い物について（10件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・買い物や通院など外出移動への不便さや困難な状況。 ・訪問サービス（介護保険）も不足の状況が続いている。
2	現状・課題	・市のボランティアやNPOなどによる買い物、通院サービスの普及。 ・移動販売の事業所や販売機会を増加してほしい。
3	現状・課題	・買い物に行く手段がなく、ヘルパーに依頼するも事業所の体制が整っておらず、移動スーパーでは好みのものがないので不満が多い。
4	現状・課題	・買い物が不便…スーパーが遠く移動販売は高い。 ・体調不良時に付き添ってくれる人、受診を支援してくれる人がいない。 ・いつのまにか独居状態になっており、生活に見守りが必要な状況にあることが誰にも気付かれていない。
	解決策	・移動販売の増加、ボランティアなどのシステム導入、情報共有。
5	現状・課題	・太宰府の地域は高台に住宅が多くあり、高齢化にて車の運転ができなくなると移動手段が少なく、外出の頻度が少なくなっている。

他多数

5 身体機能の低下について（5件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・運動をしなければいけないと思われている方は増加している。その受け皿が不足している。
2	現状・課題	・介護者の認定がその高齢者の実際の状態を反映しないことも多く、介護担当者のとまどいと負担が増えている。
3	現状・課題	・高齢率が高くなり、介護を受ける必要性がある高齢者が増えている。基礎疾患も介護必要度に大きく影響していると思う。
	解決策	・行政の発信により健康診断の更なる徹底で早期発見し、重度化しないようにしてはどうか。
4	現状・課題	・コロナ禍でフレイル状況の悪化となっている。
	解決策	・身近な場所で少人数でもできる教室などの開催が必要と思われる。
5	現状・課題	・コロナの影響で外出することさえ自粛中にて運動機能低下。ストレス解消もままならない。排便コントロール不可。

6 老々介護について（5件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・老老介護や認認介護。
2	現状・課題	・老老介護、独居（認知症）、介護力のない同居家族、家族関係が悪く常にストレスを感じ、時には強い口調になったり虐待にならないか？心配なケースなど。
	解決策	・包括支援センターに相談し介入していただき、見守り支援の必要があると考えます。
3	現状・課題	・介護をする人が家庭にいない、いても高齢であり、老老介護、夫婦ともに要介護者で認知症であることが問題になっていると思います。
	解決策	・地域包括支援センターの活用、介護サービスの利用。
4	現状・課題	・老老介護が多く、家族の負担が大きいため疲弊が否めません。
5	現状・課題	・老老介護、1人世帯、家族はいるが支援がない家庭。

7 その他（18件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・「高齢の方」といわれていますが、自立できている方、認知症の方、独居の方、家族と同居の方、高齢者夫婦、病気・障がいのある方など、個々人で問題・課題が全く異なってくるので、解決策も個々人で違ってくると思います。
2	現状・課題	・ご高齢の方といわれても生活状況は千差万別だと思います。ただ、問題点は経済状態と比例していると思います。お金がないことが問題の元になっていると思います。
3	現状・課題	・太宰府市内にどの程度の高齢者がどのように生活していらっしゃるのか自分では把握していないので、問題や解決策を聞かれてもわかりません。 ・ご自宅で生活されている方、施設で生活されている方、独居で頑張られている方それぞれに問題があると思いますが、自分が勤める施設では、それなりに課題はあると思います。
4	現状・課題	・8050問題のように、高齢者の親とひきこもりの子どもといった家庭が増えており、高齢者の親を支援する際に、子どもについても支援を必要とするケースが多くなっている。また、子どもについて適切に引き継げる部署がどこかいつもわかりにくい。
	解決策	・他部署と連携を強化する。 ・65歳未満のひきこもりや支援を必要とする人への対応を担う部署を明確にする。
5	現状・課題	・金銭管理や外出支援について課題がある。
	解決策	・金融機関の個別訪問対応、乗合タクシーなどの資源、開発など。

他多数

Ⅱ. ご高齢の方のいる家族の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 介護と仕事、介護者の生活の両立について（20件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・若い人と高齢者の生活習慣が違うので、あまり干渉しないようにしていくことが必要だと思う。
	解決策	・嫁（同居）と良い関係を持てるよう高齢者も努力が必要だと思う。
2	現状・課題	・どうしても介護が優先になってしまうので、介護者が自分の思うような生活を送れない。行政がそれを前提とした補助などを検討すべき。
3	現状・課題	・仕事や子育てをしながらの介護はやはり負担が大きいと思います。また、認知症や精神疾患に対し家族が受け入れられなかったり、周りの理解を得られなかったりすることもまだまだあると思います。
	解決策	・使用できる福祉サービスを利用するのが一番良いと思いますが、そうすることで新たに金銭面の問題が出てくることもあると思います。
4	現状・課題	・重度化すると同居家族の精神面や経済面での負担が増大する。介護のために家族が満足に仕事ができないケースもある。
	解決策	・経済的な援助や仕事を続けていけるようなしっかりとした制度が必要。

NO.	内容	
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしながら休みの日に一緒に市役所などに行かないといけない（病院も）。 ・作事中に体調が悪くなったとの連絡あり（仕事と介護の両立）。 ・仕事をされている家族が多く、介護負担が大きいのではないかと！と思います。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスを利用し、夕食まで食べて帰宅すると少しは、介護負担が軽減できるのではないかと。そのサービスを知らない家族が多い。

他多数

2 精神的、身体的な負担やレスパイトケアについて（14件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家族（介護者）の介護にまつわる負担感、責任感やプレッシャーなどもあると思う。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスやショートステイを利用し、介護負担感を減らし、休める時間をつくる。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族による少人数世帯のため主となる介護者や支援者の負担が増える。 ・同居家族がいるが、高齢者との生活サイクルの違いから無関心になる。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、看護のために家族が離職しなければならないことも多くみられる。 ・同居の家族による虐待→介護放任、心理的虐待など。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ介護サービスを利用し、家族の負担を軽くする「レスパイト・ケア」という考え方を提唱する。 ・周りの方が早く発見し、行政へ報告する。
4	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年を重ねて認知機能も年々ともに重たくなっていくかと思うので、デイサービスを利用され家族の方もリラックスされ気分転換が図れるのではと思います。
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護負担が多くなることにより、心身の疲れが出てくるのではないかと。通所サービスの利用などをして介護の負担を軽減するなどが考えられます。

他多数

3 虐待リスク、介護者家族間の関係性について（13件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに頼ることができず、自分たちで何とかしなければという思いから精神的に追い詰められ虐待などにつながる。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・介護をする家族側にも寄り添うサービスの充実。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・同居していても両親の介護をしていない子も多い。 ・遠方において、ほとんど親の様子をみに来ない子も多い。 ・親に対する無関心が問題。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で解決できることは、家族で取り組む必要性を行政側から伝える。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・初めから同居のご家庭は、家族となじまれ、問題も表面化しないのですが、高齢者暮らしが難しく、同居となったときお互いのストレスが大きいように思います。時間とともに解決していくこともあります。
4	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいても別居が多く、親の老化による衰えに気がつかない。または認めようとしない。
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者本人と家族の思いに隔たりがあり、結果、高齢者が孤立しているように思います。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ以外の職種の介入も必要だと思います（カウンセラーなど）。

他多数

4 日中独居について（12 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・同居している家族はいても日中仕事で独居や高齢世帯での生活になってしまうケースが多くなっている。
	解決策	・日中独居になるとしても安心して生活できるような地域づくりが必要かと思われる。
2	現状・課題	・急な外出時に1人で自宅に置いておけない。 ・仕事（看護者の）の都合により、自宅に1人ではられない。
3	現状・課題	・急な受け入れ、見守りができるサービスがあれば良い。
4	現状・課題	・同居家族がいると、日中独居でも見守り・安否確認ができない。
5	現状・課題	・就労されていると日中の対応ができず、病院受診や緊急時対応が困難。食べるものも若い方と同じ料理を好まない方もいて、食事の準備も大変。
	解決策	・職場の協力や同居家族がいても、市の配食サービス利用ができると良い。

他多数

5 世帯全体の課題について（12 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・高齢の親の年金で生活している同居家族がいる。その同居家族の判断能力が乏しいため、親の負担が大きい。
2	現状・課題	・障がい（知的・身体・精神）を持つ子どもなどとの同居が増えていると感じる。
	解決策	・障がい、介護と制度ごとではなく、ワンストップサービスが必要。
3	現状・課題	・経済状況のひっ迫や同居していても共働きや独身、ひきこもりなどで支援できない。
	解決策	・個人だけでなく世帯としての経済状況や通院などの状況を把握して、家計の立て直し計画や無利子融資などの相談援助を行う。
4	現状・課題	・介護力の低下、介護者の高齢化、家族関係性の低下。
	解決策	・介護を社会的に問題解決せずに、家族の中でも無償ではなく公的な手当などを支給するべき。
5	現状・課題	・高齢者のいる家族の方で、介護面に対して協力的や協力があまりもらえないこともあります。特に仕事を持っている家族の方は、高齢者の介護や仕事の疲れから、ネグレクトなどの環境などにもなりやすいと思います。
	解決策	・サービスを利用するにあたって、金銭面に余裕のない方だと制限をしたりすることもあります。社会資源の活用も大事ですが、社会資源の開拓が必要だと思います。

他多数

6 介護サービス利用、在宅医療について（10 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・遠方に住んでいる家族が多い。コロナの影響で定期的に帰って来れないことを理由に、行政へ支援をまかせきりにしている。
	解決策	・福祉サービスの普及。見守りサービスの充実。
2	現状・課題	・機能低下の程度にもよると思うが、医療に対する金額の負担や移動介助や通院時間の負担があると思う。

	解決策	・在宅医療サービスをもっと普及させると良いのでは。
3	現状・課題	・家族もできない部分があり、同居というだけで生活援助などのサービスが受けられない。
	解決策	・家族の身体状況により、緩和したサービスが必要。
4	現状・課題	・価値観の違い、生活リズムの違い、不潔行為など。
	解決策	・同居家族がいても介護保険サービスの訪問介護（生活援助）を受けられるようにする。 ・高齢者本人だけでなく家族へのケア。
5	現状・課題	・要介護状態にあっても、要介護認定の申請方法や地域包括支援センターの活用利用方法が一般的に浸透していない。
	解決策	・主治医からの助言や認知機能の低下著明になった際に認定の申請が多いように思われるため、家族が要介護状態にあるのか否かを確認できるチェックシート等があれば、介護予防に対する意識も高まるのではないかと思われる。

他多数

7 老老介護について（10件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・介護が必要となったとき、身体的な負担、精神的・経済的負担、高齢に伴う老老介護。
	解決策	・役所や地域包括支援センターへの相談、介護サービスの利用。
2	現状・課題	・核家族化が進み、老老介護が多くなっている。子どもは働いているため、急なことに対応できていないと思う。
	現状・課題	・高齢化が進み、老老介護になっている。定年後も働きに出るようになり、日中独居となる家庭も多くなってきた。
3	現状・課題	・高齢化が進み、老老介護になっている。定年後も働きに出るようになり、日中独居となる家庭も多くなってきた。
	解決策	・地域で集まれるところ、近所の方の声かけ、見守りサービスの普及。
4	現状・課題	・高齢者と暮らす家族もある程度の年齢となり、親、子も65歳以上の家庭が高齢者となっている。
	解決策	・高齢者が高齢者を介護する状況が現れている状況。相談窓口が身近にあることが必要と感じる。
5	現状・課題	・家族が就労している場合、日中、高齢者の見守りや介護ができない。また、仕事にも影響と生活に関わってくると思う。その他、老老介護という問題も考えられる。それらの方々が相談できる人や場所がわかりづらいのではないかと思う。
	解決策	・家族ごとに細かく、さまざまな問題があり、解決策としてもそれぞれのニーズに沿ったものが必要だと思う。問題を拾い上げる人、機関が積極的に歩み寄ることが必要かと思う。

他多数

8 家族が別居又は遠方に暮らしている場合の支援について（6件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・ご高齢の方と同居していない家族が、その方がどのような状態なのかを知らないことが多い。
	解決策	・家族に状態を伝える手段を構築する。
2	現状・課題	・遠方に住んでいる場合（家族が）見守りしてもらえると良いと思う。
3	現状・課題	・子どもが遠方（東京など）にいる方は、親も子も健康状態を心配します。最近リモートで面会できますが、高齢世帯のみだと使いこなすことが難しいのではないかと思います。
4	現状・課題	・同居している世帯は減少しており、高齢者が支援が必要になったとき、家族は状況が正確につかめずに適切な支援につながらない場合がある。
	解決策	・行政による知識の周知。
5	現状・課題	・昔ほど子どもと親と一緒に住んでいないことが多かったり、子どもが共稼ぎだったり遠方に住んでいるなどで、通院などの補助が難しいことがある。

他多数

9 経済的困窮・負担感について（5件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・Iと同じ。（ご高齢の方といわれても生活状況は千差万別だと思います。ただ、問題点は経済状態と比例していると思います。お金がないことが問題の元になっていると思います。）
2	現状・課題	・Iと同じ。（老老介護、独居、子どもの無職収入少による生活困窮状態がある。コロナもあるが、何らかの社会支援が必要とは思いますが具体的なものは考えに至っていない。）
3	現状・課題	・以前に比べて格差が広がり、ある程度の問題はお金で解決できることが多い。
	解決策	・低所得者の高齢者を介護する家族には手厚い保護が必要だと思います。
4	現状・課題	・仕事や家庭と介護の両立。経済的負担。
	解決策	・介護サービスの利用。
5	現状・課題	・介護離職や親の収入で自身の収入を得ていない単身者の（独身）が多い。

10 認知症への対応について（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	トイレ以外は動かない。 認知症の高齢者をどんな声かけ及び対応されて良いか。
	解決策	月1回か2回、認知症の勉強会をされてはどうか。
2	現状・課題	認知症による家族の介護負担。
	解決策	社会資源の活用。
3	現状・課題	若年では就業もあり高齢者にかまえず、認知症状が早期に発見できない。高齢介護いわゆる老老介護では、介護者の限界が早期にわからない現状がある。家族のみで高齢者を支えるには限界があると思う。
4	現状・課題	高齢者が認知症かもしれないと思って病院には受診させたいが、本人が行きたがらないときは困っている。 本人を納得させて受診させるがタイミングはあると思う。

11 社会的孤立について（3件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・家族が就労していたり高齢であったり、また家族の中にも疾患（特に精神疾患の既往）があり、地域社会とは孤立し、問題が大きくなったときに発見されている。
	解決策	・地域の人による声かけや見守りなど、さらに地域と公的機関とのパイプ役となる人の育成が必要だと思う。
2	現状・課題	・別居であれば健康面、生活の安全など心配だろうし、同居でも他の家族が仕事や学校などで高齢者が日中1人で家にこもりがちだとひとり暮らしと変わらない。
	解決策	・地域交流ができる環境と高齢者と家族内の信頼関係、相談できる行政サポートが必要。
3	現状・課題	・よく近所の見守り強化や助け合いを言われますが、そのご近所も高齢化されており、逆にちょっとでも不穏な状態や徘徊が出現すると、ご家族に施設に入れた方が良いのではと試してみえます。

12 介護・介助の方法、知識について（2件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・介護・介助のやり方がわからない家族へのサポートが必要。不安だけれど誰に聞いて良いかわからないとのこと。
2	現状・課題	・テレビやネットなどの情報を得ることで介護や施設などの知識を持ってご家庭に接したり、施設に相談に行かれることが多いと思われるが、思いが強く現れたり、知識が偏っておられる。

13 その他（8件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家族といっても高齢の家族、娘または息子嫁がいる家族、息子のみの家族では状況が違います。息子さんやご主人のみの場合は家事（掃除、洗濯、調理）がどれだけ可能か？！また、排泄のことが一番問題ではないかと思われます。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・他の家族の協力、介護サービス利用などが考えられます。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家庭のことは私たちが全て知っているとはいえません。どのような問題があるか把握できません。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのご家族にそれぞれの課題があると思うので、どこのご家族もということではないと思いますが、お年寄りの年齢・性別・介護度などによって変わると思います。介護能力・知識・サービス利用状況などいろいろと考えられるでしょう。
4	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ご高齢の方の場合、その日によって健康状態が違うため同居家族としては、まず健康管理がとても心配であり、難しいと思います。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに相談できる窓口があったらと思います。
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ問題点は違うとは思いますが、介護区分をお持ちであれば介護サービスが利用できますが、非該当の方々の相談できるところや、居場所があるのかが不明です。

他多数

Ⅲ. 高齢者のなかで、とりわけ低所得などによる生活困窮者の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 医療、介護サービス等の利用控えについて（35 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・介護サービスが必要な高齢者の方は、所得が低いことで支払いが難しくなるため、本来必要なサービスや回数が受けられない可能性があります。生活保護を受けている方は十分な介護サービスを受けられますが、低所得の方が介護サービスを受けられないのも問題だと思います。
2	現状・課題	・単純にお金がないから思うようなサービスを受けられない。逆に生活保護を受けている人は、比較的自由にサービスを受けられているイメージ。
	解決策	・お金がない方への優遇と生保の人への制限をきちんと考えるべき。
3	現状・課題	・介護が必要でも社会資源を知らない。低所得のため受けられない方もたくさんいるのではないかな？
	解決策	・本当にどの程度困窮しているか現状を細かく把握する。
4	現状・課題	・必要と思われる福祉用具やサービスの導入・購入になかなかつながらない（お金の問題で）。
	解決策	・申請→協議→支給（無償）とできればベスト。
5	現状・課題	・介護サービスが必要な状況にあっても、経済的な問題で利用することができない。
	解決策	・有償ボランティアなど、低価格でちょっとしたサービスが利用できるようにする。また、低所得の高齢者でも、元気のある方がボランティアとして働くことにより、少しでも収入を得られる機会をつくる。お互いが支え合えるような事業の展開ができればどうだろう。

他多数

2 衣食住、金銭管理、健康管理について（26 件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・暑さ寒さ対策に鈍く、節約のためか？夏場のクーラーを利用しないことがあり、熱中症になりやすい。
	解決策	・市役所の職員が高齢者宅を巡回して見守りを行うと良いのでは。
2	現状・課題	①自宅内とじこもり。②食事の偏り。③洋服の穴あき。 ④買い物のきりつめ。
	解決策	①②子ども食堂のような安い価格で食べられる食堂。 ③下着や洋服など、穴あきや汚れていないものを着てもらえるような支援。 暑さや寒さをしのげる場所の提供。
3	現状・課題	・買い物と金銭管理。
	解決策	・家計の管理など、サポートや相談できるところがあればと思う。
4	現状・課題	・実際の収入がいくらくらいで、何に使っているのかデリケートな部分なので、把握できないことが多い。
	解決策	・きちんと収入が把握できる関係性の構築が必要。
5	現状・課題	生活困窮者の健康面が問題と思われる。
	解決策	何らかの支援の際に必ず健康チェックや健診（検診）を行なっていく。

他多数

3 低所得者への支援について（16件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・「ひとり暮らし」の高齢者などに多くみられる、就労による所得がない。
	解決策	・生活保護による支援を受ける。
2	現状・課題	・生活保護の方は守られていますが、保護以下の低予算で生活されている方も多くおられます。病院にもいけないような状況です。何か策があったり、相談窓口がどこなのかが不明です。
3	現状・課題	・住宅確保が難しい（生活保護以外の生活困窮者）。施設入所やアパート契約にかかるお金が支払えない。
4	現状・課題	・生活保護を受けている方は良いが、受けていない方の支援ができていない。行政の支援もなく頑張っている方もいる。
5	現状・課題	・今の所得で万が一のときに不安が生じる人は多いが、生活保護申請に足踏みしている人もあるでしょう。
	解決策	・行政側より生活保護申請の声かけも必要では。
6	現状・課題	・救済処置として生活保護に該当しない年金額、預貯金がないレベルの高齢者。行政の支援につなげない。

他多数

4 世帯全体の生活困窮など複合的な課題について（7件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・8050問題、年金依存する家族も少なくない。
	解決策	・解決策はわかりません。
2	現状・課題	・十分な生活視点が本人にはわからない。精神的に病んでいる方も多いと思う。年金の支給の改善や行政、地域での支援はまだまだ不十分だと思う。
3	現状・課題	・低所得・生活困窮者・いわゆる弱者ですが、どこまでが該当するのかの線引きが難しいと思います。障がいをお持ちで働きにくい環境にある場合と幼少期より親子で努力せず負の連鎖（甘さからくる）、その見極めが大変なので、真面目に納税されている方々から共感を求めるのも容易でないとは私は考える方です。
4	現状・課題	・生活保護費受給中の高齢者が、別居中の家族に保護費を搾取されているのではないかとされる事案があった為、担当介護支援専門員だけでなく利用中の介護サービス事業所とも情報共有、連携が行政には必要と思われる。
5	現状・課題	・子どもの無職による親の年金に頼っているケースもある。親が亡くなった場合、公的支援対象になることもある。そのため、子どもの自立支援を地域などで専門職をまじえ対応することが必要。

他多数

5 相談支援、情報発信について（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・低所得者、生活困窮者の方々が平等に医療・介護サービスが利用でき、衣食住の確保ができることが理想であるが、表面に出ておられない方々もおられるのが現実です。
	解決策	・早い段階での相談、解決法を探せるようなネットワークの構築が必要でないかと思います。
	解決策	・サービスを使えないと思われる方々に、どのようなサービスが使えるか相談できる方を設ける。
3	現状・課題	・困窮により生活が成り立っていないにも関わらず、相談にまで至っていない。支援を求める判断（意思）が精神障がいや知的障がいがあった場合、福祉サイドが積極的に介入（アウトリーチ）しなければならないと思う。
4	現状・課題	Iと同じ。（支援が必要なのにサービスが少ない。→どこにどんなサービス、社会資源があるのかの情報を誰でも知れる体制づくり。→ボランティアをしてくれた人にも待遇を良くする、賃金UP。）

6 社会的孤立について（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・社会的孤立、生活不安。
	解決策	・働くことができない高齢者に対しては、生活保護など社会保障を行い、意欲があり働く能力もある高齢者には就労支援を行う。やりがいや孤立防止につながっていくのではないかと思う。
2	現状・課題	・高齢夫婦での生活や1人だけで生活をしている人が増え、同居家族の助けがなくなった。
	解決策	・退職年齢の見直しや再雇用。
3	現状・課題	・生活していく中で必要な物の購入費に困ったり、人との関わりも持たず、孤立し年を重ねるごとに身体的にも精神的にも苦を感じておられる。行政の力が必要。
4	解決策	・地域の方々の見守り。 ・ボランティアの方々の傾聴により問題点を引き出し解決していけたら。

7 その他（4件程度）

NO.	内容	
1	現状・課題	・お金の余裕がないこと、お金がないことが問題。
	解決策	・少しでも不安を取り除いてあげること。食事（弁当）の提供など。
2	現状・課題	・生活に困っている利用者の方ほど、通所には我を通される方が多い。
3	現状・課題	・デイサービスに来られる方は生活困窮者とはいえないう方が多く、よくわからない。
4	現状・課題	・Iの問題と通じているところがあり、スーパーで値引き品を大量に買っておられる方を見かけたことがある。

IV. ひとり暮らしのご高齢の方は、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 日常生動作全般について（47 件程度）

NO.	内容
1	・家事、整容、入浴、衛生、外出、通院、身の回りの整理、会話する相手がいらない、問題を伝える人がいない、わからない、孤立している。
2	・身体機能低下に伴い、細々とした日常生活動作が困難になっている。
3	・独居でも認知症がある方などは判断が難しいと思います。一人ひとりの身体状況に応じてかとは思いますが、重たいものの購入や自宅内の身の回りのことを行うことに対して負担に思っておられる方も多いかと感じます。また、外に出ることや交流が減ってきておられる現状もあり、他者と関わる機会も少なくなってきて刺激もない生活を送っておられる方が多いかと思えます。
4	・買い物、調理などができないが、頼む人がいない。 ・話し相手がいらない。 ・家族に頼れない（もともといない、仲が悪い、遠方に住んでいるなど）。
5	・買い物、食事、生活全般が1人で難しくなっていて、誰に相談して良いかわからない。

他多数

2 体調不良や転倒など、緊急時のことについて（31 件程度）

NO.	内容
1	・ひとり暮らしもいろいろな状況の方がいるので、答えるのが難しいですが、全ての高齢者に共通するのは、急に体調が悪くなったり転倒した際に助けを呼べないこと。また体調不良時の病院受診、食事の準備。悩みについても同じで「自分が病気になったら…」と考えるとと思います。
2	・もしもの場合（転倒、意識消失、死亡）の発見が遅れる。 ・安否確認を伴うサービスの種類をもっと増やすべき。
3	・日々の暮らしの中でさまざまあると思いますが、買い物や力のいる作業、自宅内でケガや病気をしたときに、すぐに助けを呼べないこと、何か問題が起こったときに話したり、相談に乗ってくれる相手が近くにいないことなど、体力的な面から精神的な面まで言い出したらきりが無いと思います。
4	・心身の健康状態（持病）の悪化、急変時の不安。 受診や買い物、食事の準備など、頼れる人がいない。
5	・何かアクシデントがあったとき、病気で倒れたり、転倒して動けなくなったときすぐに助けを呼んだり、気付いてもらえる人がいないなど。

他多数

3 相談できる人がいない、支援者がいない（31 件程度）

NO.	内容
1	・身体的・経済的に困った状況になったとき、誰に相談したら良いかわからず、不安を抱えて生活している。周囲に迷惑をかけたくない、頼りたくないと思っている独居者もいる。また、身体が自由がきかなくなったとき、食事の確保、受診の援助者がいない。金銭管理の不安があると思われる。
2	・買い物、1人で受診、相談するところがわからない。

NO.	内容
3	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったり、体調を崩したときに相談する相手がいない。 ・話し相手がいない。 ・体調不良や入院となったときの心配。 ・お金の心配。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときや不安になったときに相談する窓口が必要と思う。 ・（高齢夫婦など）片方が入院や病気となったとき、子どもたちへ迷惑かけたくない気持ちが強く、不安となる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・保証人、身元引受人がいない。

他多数

4 地域で孤立している、外出控えについて（19件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・話し相手がおらず、加齢になり（ALDが低下し）外に行けず（買い物などができない）家にいる時間が増える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・相談相手や頼れる相手がいないこと。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・心身機能の衰えや認知症などで判断能力が十分でなくなり、ひきこもりがちになる。 ・受診や買い物などの外出が難しい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中での周辺住民との人間関係。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会が少なくなりひきこもってしまう。 ・普段の買い物や病院への送迎問題。 ・他者との交流がなくなり寂しい。

他多数

5 日常の買い物や移動手段について（16件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物（近所にお店がない。一度にたくさん買えない（持てないので））。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者の方々によく聞かれるのが、移動手段に困る、受診を行う際、医師に何から伝えて良いのかよくわからなくなる。 ・買い物した荷物が持てない、自宅内で異変があったときにどうしようかなどよく耳にします。ご家族がいないもしくは遠方在住で不安であるということもよく聞かれました。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・外出がしづらい状況があり、買い物などの支援を求めておられる。 ・さまざまなことを気軽に相談できるシステムが必要。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が近年多く、ひとり暮らしの高齢者は判断に迷うと思う。 ・買い物や通院時の移動手段。孤独感。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・孤独。外出手段がない。緊急時の対応。

他多数

6 食事のバランスや健康管理について（13件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な食事を摂らず栄養が足りていない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活だと思ふ。自分でガスやレンジを使えなくなったとき、または、ガスの消し忘れ、レンジは使い方を忘れてしまう（温めたとしても取り出すのを忘れる）。 ・食べたのに食べたことを忘れる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・食事などを1人で行うこと。→配食サービスを利用すると良い。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかに食事の偏りがある（特に男性高齢者）。家の片付け。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の不安。

他多数

7 薬の管理（7件程度）

NO.	内容
1	・健康管理（受診や薬の管理）。
2	・お薬の管理が大変そうに感じることがあります。
3	・見守りの目がないことで、服薬の管理が上手くいかなかったり（飲み忘れなど）、急に具合が悪くなったときの不安が大きいと思う。
4	・受診しても薬をきちんと服用できず病状が悪化。
5	・服薬管理ができない。

他多数

8 金銭管理や必要な手続きができない（6件程度）

NO.	内容
1	・頼れる人や相談相手がいない。煩雑な行政手続きなどが理解できない。
2	・家族の支援が得られない。全く親族がいないため、急に体調を崩し入院になった場合、病院の契約は誰が行う？後見人の制度の説明をしても、後見人の支払う費用などもあるため、手続きを先延ばしにする方もおり、何かあった場合対応の負担が大きい。
3	・急変したときの対応や入院手続き（保証人やキーパーソンがいない）認知低下が来た場合の資産（財産・不動産）相続の手続き。
4	・食べ物（買い物）銀行、書類書きなど、目・足などが不自由になっている。
5	・相談先がわからない。 ・いろいろな書類が郵送されてくるが意味がわからない。手続きが複雑。

他多数

9 介護保険サービス等について知らない、情報を得る方法がわからない（4件程度）

NO.	内容
1	・介護保険サービスを知らない、使い方がわからないという方が多い。
2	・情報が不足しがちということと、周囲の方の状態把握が困難だということ、サービス利用者側が密接に関わることができているのか、他者との関わりをどのように維持していくのかなど考えられると思います。
3	・行政サービスについての情報を入手できていない。市報などを見ても自分に該当することがわからない。年金や交付金の手続きなどに関し、複雑で書類作成ができず放置したり期限が切れてしまう。
4	・利用ができるサービスを知らない方が多いと思う。 知らないが為に、食事・入浴・通院、など困っていると思う。 又、外とのかかわりが少ない為、まわりの人も気づいてあげられない。 デイサービスなどに通い、人とふれあう事が大切と思う。

10 孤独死（4件程度）

NO.	内容
1	・核家族、身内がないひとり暮らしの高齢者には孤独死が心配。
2	・ひとり暮らしをすることで起こる問題の解決策を考えなければいけないと思う。孤独死、ひきこもりなど。
3	・孤独死は避けたい反面、仕方がないとも考えておられる。
4	・孤独死。

11 その他（7件程度）

NO.	内容
1	・その方の境遇によると思います。健康状態、経済状態で全く違うので、ひとくくりにはできない。
2	・直接ひとり暮らしのご高齢の方にお聞きになられると良いのでは。
3	・健康面にしても不安があるのではないかと。受診しか選択肢がないと思っている方がほとんど。地域医療の充実は急務と考えている。
4	・ひとり暮らしで困っている方は少ないと思う。自分の思うように生活し、それが当たり前のようになっているケースが多数。時々目にした周りの方が心配して声を出している状況。家族がいるのであればつなげてあげることが一番。
5	・本人たちは困っていると感じていないところがある。今の生活を続けたいと思っている方もいる。時間をかけて説得する必要がある。

他多数

V. 高齢者夫婦のみで暮らしている世帯は、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 互いの介護による負担、共倒れのリスク（57件程度）

NO.	内容
1	・相手が介護状態や病気になった際、自分が相手の世話、介護をどれだけできるのか?! 自分の体力がどこまで持つのか?! などの不安があると思います。
2	・それぞれ健康なら良いが、ADLが低下したり、病気になったらどうするかなど、今後のことに対しての不安があるのでは?
3	・自分や配偶者に何かあった場合の対応、心配や負担感が大きいと思う。
4	・夫婦ともに体力が衰え老老介護となり、移乗、入浴、着替え、排泄など、介護負担が大きく共倒れになるリスクもある。
5	・老老介護の世帯も多く、介護される人・介護する人両方を支援することが必要。

他多数

2 日常生活動作全般について（26件程度）

NO.	内容
1	・老老介護や認認介護。
2	・家事、外出、移動、衛生、金銭。
3	・老老介護で悩んでいると思います。
4	・電球の交換など、若い人であれば簡単にできることができない。
5	・お互いに高齢のため、掃除など家事全般が体力的にも大変だと思います。地域ボランティアの方の協力を得ながら地域全体で支援してほしいです。そして困りごとや相談を気軽にできる窓口の拡充につなげてほしいです。医療面のサポートも必要なのでさらに力を入れて取り組んでいただけたらと思います。

他多数

3 体調不良や転倒など、緊急時のことについて（12件程度）

NO.	内容
1	・老老介護だとアクシデントが起きた場合、対応が困難な場合があり、手遅れになることも。 ・行政の高齢者の方でも相談しやすい、理解しやすい、サポート体制の構築が必要だと思う。
2	・配偶者が入院や介護が必要になったとき、若い世代と比べ負担が大きい。
3	・ご自分や配偶者に何かあったときの対応に心配が大きいと思う。
4	・夫または妻どちらか1人が病気になったとき、精神的・身体的負担が大きい。
5	・お互いの健康状態。・緊急時の対応。

他多数

4 介護保険サービス等について知らない、情報を得る方法がわからない（8件程度）

NO.	内容
1	・老老介護で大変。しかし介護サービスのことを知らない、サービスを利用したくてもどこに相談すれば良いかわからない。
2	・介護などの知識がないまま、パートナーの介護に突入してしまい、イメージしているのは若かった頃の動きや、何でもできていた頃の姿であり、それができなくなった（できなくなってきている）状況の受容や気持ちのコントロールができないため、虐待などの行動となることが多い。夫婦なので「勝手知った仲」なのだろうけど、「はよせんね!」「違うやろ!」などのやりとりは、家族間でも言葉の虐待（私の個人的な見解です）となり、そこから問題へとつながることが多いと思います。
3	・利用ができるサービスを知らない方が多いと思う。 知らないが為に、食事・入浴・通院、など困っていると思う。 又、外とのかかわりが少ない為、まわりの人も気づいてあげれない。 デイサービスなどに通い、人とふれあう事が大切と思う。
4	・老老介護による介護力不足。情報不足。
5	・サポートしてくれるところがわからないとか、わからないことだらけだと思う。

他多数

5 将来の不安（7件程度）

NO.	内容
1	・ともにお元気で健康に問題なければ、ご夫婦のペースで生活を営むことができますが、どちらかが介護状態などになると自身のことでもいっぱいである以上に、介護という労力が加わり困っているという現状があります。また、将来どうなるのだろう…と不安を抱えておられる方々が多くおられると思います。
2	・自分の死後の整理。
3	・ご夫婦で支えあっておられますので、どちらか1人が欠けたとき、残された方のことを心配されます。
4	・将来、1人になってしまったときの不安。相手が倒れたときの不安。
5	・夫婦のどちらかが他界した場合、いろいろなことで困ってくると思われる。

他多数

6 相談できる人がいない、支援者がいない（7件程度）

NO.	内容
1	・夫婦2人で何としよう！と思い込んでいる家庭もある。
2	・困っていてもどこに相談すればいいかわからない。
3	・俗に老老介護といわれる、高齢者が同じく高齢の配偶者を介護することは、負担が大きいと思います。身体的な問題がある方、認知症や精神疾患などで問題がある方など、要介護者によって悩みはさまざまですが、介護者が1人で抱え込もうとしたり、相談窓口や行政サービスの内容、その手続きなどがわかりにくかったりすることもあると思います。
4	・子どもたちが近くにおらず、些細なことも相談できないこともあるのではないかと。
5	・さまざまな困りごとがあっても、子どもや親族に簡単に頼ることができない。

他多数

7 金銭管理や必要な手続きができない（3件程度）

NO.	内容
1	・認知面の低下に伴い、判断能力に課題が生じている。重要な医療行為などの決定など、きちんと理解しているかわからない。
2	・住まいについて、独居になったときの不安。残された自宅、土地についての処方の方法。
3	・市役所などからくる書類がよくわからないと相談されます。確定申告などもわからないし、昔のように会場まで行けないと困っています。

8 その他（5件程度）

NO.	内容
1	・直接質問された方が良いと思います。
2	・生活（先の）の不安。金銭面を福祉に関すること。
3	・一方が入院や入所になったときの経済面が困難となる。・老老介護。
4	・わかりません。
5	・夫婦仲が悪くなる。

VI. 高齢者夫婦のみで暮らしている世帯は、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。

1 サービスの周知について（22件程度）

NO.	内容
1	・介護保険を利用している高齢者は担当のケアマネが上手く行政サービスをプランなどに組み入れ活用しているが、ケアマネがいない高齢者や家族には行政サービスにどのようなものがあるのか知らずにサービスを受けられていない方が多いのではないかと。多くの人に周知してもらおう。
2	・受けられるサービスを知っていただくことから始めないと、大部分の方はサービス内容自体を知らないと思います。
3	・支援する行政サービスがあることを必要としている人が知っているのか？
4	・行政が行っているサービスが市民に知られていないと思うのでもっと知る機会を増やした方が良いのではないのでしょうか。
5	・支援してもらおうサービスを利用したくても「どうして良いかわからない」方が多いと思う。簡易的な相談口があれば…。

他多数

2 サービスの利用しにくさ、わかりにくさについて（19件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも理解しづらいサービスが多い。もっと高齢の方でもわかるようなものをつくるべき。 ・本当に高齢者のため、家族のためを思って考えられている気がしない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・表面的なこと（サービス）はできていると思うが、もう一歩住民に寄り添ったものが必要ではないか？
3	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなサービスがあるのかわかりづらい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスがわかりにくい（どうやって使うか、どんなサービスがあるか）。 →広報活動の見直しを。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市によってサービスがさまざまであり、受けられるサービスや受けられないサービスがバラバラ。ある程度統一できるような制度ができればと思います。

他多数

3 利用手続き、利用条件、限度について（19件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスには枠と限度が設けられているため、本当に必要なことがサービスとして受け入れられていないことが多々あります。ある程度の制限は必要だとは思いますが、サービスとして行える内容の拡充が必要ではないかと思えます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の現状をきちんと把握し、サービス限度を超える場合にどのように対応していくのか、業務として対応するのか、寄り添って対応するのかなど。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスの書類手続きの面倒くささ、家族でなければダメ、まずはケアマネに相談してという判断。 ・とりあえずお試しで！！という即決性がほしい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・手続きが難しかったりして、高齢者家族が積極的に利用できないでいる。利用しやすいサービスを考えていただきたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状態によって対応できない場合がある。 ・施設を移動された場合、施設によって前施設からの情報が不十分であったり、対応がバラバラであること。市で統一したフォーマットを作成するなど、引き継ぎ情報を統一、明確化する。

他多数

4 課題の把握、相談、支援などの体制について（17件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えている世帯の把握不足。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族が訴えない限り、問題が把握できない。 ・問題がわかっても、すぐに対応できなかつたり、本人や家族が受け入れてくれないことがある。行政サービスがまだわかりにくかつたりしているのでは？
3	<ul style="list-style-type: none"> ・現状から改善できたり、新規事業に取り組んだりできることはまだまだあると思うが、職員が不足しており、改善や新たな取り組みにつなげることができていない。数年で職員の入れ代わりがあるため、介護サービスの昔からの流れを把握している人がほぼいない。会計年度任用職員の能力の差が大きく、対応や業務内容・量に差が出てしまっている。マニュアルがないことが多く、統一した対応が困難な場合が多い。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・受け付けまでに時間がかかる。状況把握してからは、対応は早いと思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援とはいうものの、なかなかワンストップで対応できていない。医療、介護、福祉、税金、法律、就労支援、経済、消費者被害、手続き一般など普通に生活していても難しいことが増えている。 ・個人情報の問題はあると思うが、行政と民間企業間での情報共有をすることで、手続きが簡単になつたりしないか。水光熱費の支払いが滞ったら、すぐに連絡があるとか。

他多数

5 サービスの整備について（8件程度）

NO.	内容
1	・訪問ヘルパー導入に際しての基準について、少し緩和されるべきではないか。子ども世帯と同居していても共働きがほとんど。高齢夫婦のみでは介護や十分な家事は難しい。
2	・困ったとき、いざというときのサポート（家のこと、外のこと）。 ・健康なときから意識することができる。 ・高齢者とその家族の付き合いを事前に考える場を行政が設ける。
3	・介護保険サービスを使っても、在宅での生活が困難。ケアマネ、家族に相談で問題を解決できるようにする（デイサービス・ショート利用・施設入所）。
4	・訪問介護。・訪問看護。・デイサービス。・施設。
5	・高齢者施設を行政支援で建設しても、介護士が足りず新築のまま十数床も受け入れることができず、オープンしても空室のままの現状に、正直、計画性が欠けていると感じています。

他多数

6 移動手段について（5件程度）

NO.	内容
1	・福祉の施設を利用したくてもタクシーなどを使わないと利用が困難。送迎車があれば行政サービス活用が増えると考えられます。
2	・太宰府は坂道や団地が多く交通も不便で、高齢者が外出するにも不便であり、マイクロバスのように利用しやすいサービスが必要。
3	・買い物支援と移動支援が必要になっているが、ボランティアでは難しいので有償ボランティアで支援していくことが解決につながっていくと思います。
4	・病院受診や買い物などでの移動手段として、タクシーを利用される方が多いが、タクシー券が要介護認定を持っている方には適用されない。 →月1回の定期受診時のみでも、何かサービスがあると経済的負担が少なくて済む。また、移動スーパー（自宅前まで可能な分）の便が増えると訪問介護での買い物サービスを減らすことができると思います。
5	・コミュニティバスの充実。・買い物に行けるバス。・移動販売。

7 介護離職について（3件程度）

NO.	内容
1	・家族が介護と仕事の両立が難しく、仕事を退職せざるを得ない場合もあろう。また、それによる経済的・精神的・身体的負担の増加が考えられるため、行政や企業が一体となって支援する。
2	・介護離職をしなくても済むサービス。
3	・高齢者とともに生活している働く世代は、職種や時間を制限されているのではないか。行政として細やかな支援が届いていない。

8 その他（20件程度）

NO.	内容
1	何の問題もなく使えている方もいると思いますが、人によっては金銭的な負担でサービスの使用に限度があったり、要介護者の介護度数が見合っておらず、過度なサービスの使い方をしている、もしくはサービスが十分に受けられないといったこともあると思います。
2	・高齢者の健康状態、経済力、活動性により支援が必要な人だけでなく、健康な人、活動的な高齢者にも支援が必要だと思う。
3	・行政でできること。先送りにするのではなく、今必要な支援は積極的に行うこと。
4	・民生委員の方の高齢化が進んでいるのではないかと。学生ボランティアなどを利用し、気軽に相談できるのではないかと。学校と話し合いを行い、そのような相談ができる学校には学位を授与したり、またはコロナのアルバイトの代用で資金などを授与したりしてはどうか？
5	・民生委員の数が少ない（1人が担当する数が多い）。 ・地域では何が起きているのか行政は周知しているのか疑問。 ・現場に出て情報を得てください。 ・介護についての相談がいつでもどこでも可能なようにしてほしい。

他多数

Ⅶ. 高齢者やその家族を取り巻く地域の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

1 地域とのつながりについて（35件程度）

NO.	内容
1	・昔は隣近所との交流があり、どういう方が住んでいるのか知っている人が多かったが、近年では隣にどういう方が住んでいるかわからない人が多いのが現状。民生委員の方はよくお世話してくれているが、近隣の方との交流は簡単なものではないと思います。
2	・地域全体でその高齢者をみていくというような言葉がよく聞かれるが、まるで地域が一つになっている気がしない。隣人の介護負担すら自分にはわからない。まずはそうなるための政策を考えるべき。きれいごとには逃げすぎ。
3	・困っていることが表面化するのが遅くなりがちで気付くのが遅くなる。 →隣人との関係を良い関係にできるよう日頃から気にかける。行政としては、コミュニティを小さくして、個人の把握ができるようにする必要があると思う。
4	・高齢者だけでなく、市民全体の交流が昔に比べてなくなり、近所の人の顔もわからないし、コミュニケーションもなくなってきている。 ・解決策はわかりません。
5	・昔からその地域に住んでいたり、ある程度地域との交流がある家庭は良いが、他の地域から越して来て間もなかったりすると、その中に入っていきことや、まして何かあったときに地域の協力を得ようとするのが困難だと思います。地域内での問題解決には、民生委員の方も大切だと思います。

他多数

2 地域活動、助け合いの地域づくりについて（18 件程度）

NO.	内容
1	・場所によっては若い世代が少なく、高齢者が高齢者を支えている地域も多い。 ・現代世代は共働きが多く、地域活動に十分に参加できない。
2	・高齢者のみで構成される核家族の増加、老老介護、認認介護などの増加。若い世代はなかなか高齢者に接する機会もなく、地域での活動に参加する機会が少ないと思う。
3	・周りの理解の低さ（認知症などへの）→理解してもらい、地域全体で協力していく。 ・日中、高齢者が1人になっている。→通所介護やヘルパーの活用。
4	・仕事の日以外に遊ぶだけでなく、家庭のことをするように、遊びの中に考えることを組み入れる。生活に安心感を与えることができるという印象を持ってもらえるような。若い人の悩み、立場を考える。大変ではなくこうすれば何とか大丈夫だ（完全に大丈夫なことはないんだけど）。住民同士が助け合うような仕組みを行政がつくる。
5	・高齢者や家族がこれまで地域とどのようにつながってきたかで地域の力を感じるのに差がある。マンションや隣人とのつきあいの少ない団地住まいの高齢者はひきこもりやすく、そのために日常の生活の様子がわからない。元気な頃から地域の活動やボランティア活動に参加する姿勢が必要である。

他多数

3 見守り活動について（8 件程度）

NO.	内容
1	・地域や郵便局、薬局など各機関が個別に問題点や課題（見守り）に取り組もうとしている。行政機関などがとりまとめる必要がある。
2	・家の近くに相談者がいない。地域によって民生委員などの動きが違う。誰が民生委員なのかも知らない。一度も来たことがないと聞いたことがある。訪問しているのかどうか行政への定期報告をする役を決める。報酬ありにする。地区の〇〇会への声かけ、出席有無確認など。
3	・高齢者の把握、声かけ、見守り、認知症による徘徊。
4	・昔からの地域はあまりないと思いますが、高齢者や家族の受け入れが悪く入り込めない。
5	・家族が遠方や、地域も高齢者世帯が多く、見守りも難しい状況がみられている。 →サービスを増やしたりしながら家族とも連携を図る。

他多数

4 相談支援について（6 件程度）

NO.	内容
1	・本人や家族が困りごとで相談しやすい場所があると良いと思います。
2	・介護に関する相談場所が少ない。多くすると人材を要するし、予算もない。例えば、各公民館へ日替わりで回って、介護相談や教室・勉強会などを行う。そこで地域資源とのつながりを増やし、孤立や虐待防止にも多少つながるのではないかと考える。 ※各セクションが個別に動いても連動や連鎖しないと考える。
3	・高齢者の方に包括支援センターは何をすることでいいのかと聞かれたことがあります。子どもでも分かりやすく冊子のようなものを作成するとか工夫してほしい。相談しやすくできませんか。
4	・VIと同じ。（高齢者本人や家族が支援を求める前に民生委員、行政側よりアプローチしていく体制づくり。）
5	・行政の窓口で相談されることを遠慮しておられたり、どのように相談してよいか難しいので困っておられる場合もあるのかと思います。区長の方や民生委員及び地域生活支援センターの方のさらなる連携強化が必要不可欠だと思います。

他多数

5 介護サービスや地域資源について（6件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のご家庭はいろいろで、問題もそれぞれです。介護支援事業所スタッフとしては、介護サービスで解決しようと試みますが、高齢福祉のサービスや民間サービスも欠かせません。すぐに解決はできず、時間がかかることもあります。ケアマネがモニタリングと称し、定期的に見守りや声かけを行いながら、新たな地域サービス発掘されることもあるので、それを気長に行うことと思います。 ちなみに、太宰府市はどのようにお考えですか？
2	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の家族で状況が違うので、柔軟に対応できるサービスがあると良いと感じる。定期巡回サービスは必要と感じる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・人口7万人都市に対して、ヘルパー事業所が少ないと感じる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分の状況をしっかりと把握できるようなサービスや環境が必要と思われます。そういったサービスを発信したとしても、結構多くの方が、情報を収集できないでいる状況があると思われます。自分の現在の生活や身体状況を把握でき、どのような生活が選択可能であるのかを指導できる環境が必要だと感じます。解決策としては、データの収集と対応できる人材の育成、組織づくり。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりが減り、家族の負担が増え、介護疲れが問題だと思ふ。利用できるサービスをつかい、介護負担の軽減をはかる。

他多数

6 個人情報保護について（5件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（近隣）に現状を知られたくないと思っている家庭もあるのではないかと？
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で関わりを持ち、とよく言われていますが、周りもどの程度踏み込めば良いのか難しい問題だと思ひます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員のみに現状把握をまかせてしまうのか、両隣への周知をするのか、個人情報とすることを逆手にとって現状を隠していないかなど。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護もあり、なかなか踏み込めないが、日頃からの顔の見える関係性を意識していく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報。

他多数

7 地域性について（4件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者が増えている。 ・認知症でひとり暮らしの人もいると思ふ。増えているかどうかは不明。 ・地域とは？太宰府市でも五条と北谷とでは違ふと思ふが、地域性の把握は太宰府市の職員さんは理解してありますか？
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を把握し地域住民と市が連携し高齢者などの問題を相談窓口につなげることが必要と思ふ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・通院や買い物など交通や移動の不便性、〇〇ヶ丘や〇〇台に居住している方は、急勾配の坂道などにて転倒や外出活動がおっくうになる可能性がある。高台の地域にもスーパーや店の普及を検討すると良いのでは。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間の格差がかなりあると思ひます。

8 その他（17件程度）

NO.	内容
1	・通院されている高齢者がとても多いと思います。過度な治療や投薬で医療費が増え続けると思います。病気予防に力を入れる健康祝金みたいなものをあげるとか？
2	・核家族化が進み独居や老老介護の高齢者が増加している。解決策としては親と同居すれば税の優遇を受けられるようにする。
3	・虐待が増えているのは統計的にあり、公表されているのは氷山の一角だと思われる。
4	・高齢者ができるだけ自立して活動していく社会をつくることで、家族や周囲との関わりが増えると考えられます。介護予防事業を増やしていくのが良いかと考えます。
5	・独居が多いため、家族が関わらなくても良い方向になってきているので、市の負担を減らしていくには、家族に負担をかける方法を市独自でとっていくことが共存していくことにつながると思います。

他多数

VIII. 災害に備え、高齢者に対する避難などの支援活動を円滑に実施するため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

1 日頃の防災活動、避難訓練や災害が起こったときの避難体制について（33件程度）

NO.	内容
1	・年に一度でも公民館単位で避難訓練を行うことで、地域の高齢者世帯状況が把握できる。それにより、支援の充実を図ることができると思います。
2	・予行練習（老人会など）。
3	・普段から災害を想定し、地域で高齢者を対象にし、伝達（実技を含めて）を行っていく。
4	・防災活動を町内ごとに細かく計画していく取り組みが必要だと思います。
5	・民生委員さんや地域住民の声かけや電話連絡などが必要だと思われます。今年の台風の際に避難指示や場所がわからず、土曜日だったので、どこに連絡して良いかもわからなかったと聞いたことがあります。スマホや携帯電話を持たれていないため、テレビのテロップなどを頼りにされていたそうですが、結局わかったときには、外の風も強く出るのが危険だったため、自宅で過ごされていたそうです。

他多数

2 日頃からの声掛け、見守りについて（24件程度）

NO.	内容
1	・本来であれば近所に誰が住んでいるか把握して、災害時など高齢者がいるお宅に声をかけて避難・救助してもらうのが望ましいが、上記にも記載した通り理想的な近隣交流は難しいのではないかと思います。
2	・隣近所で声をかけ合ったり、挨拶などができるような環境づくりをする。一人ひとりが他者との交流を持てるよう心がける必要がある。
3	・まず、高齢者及びその家族が災害に備えて意識を持つ（最も重要）。 ・地域住民同士のつながりづくり。互いに支援し合う意識をつくる。 →見守り、災害時避難に向けて住民同士の支え合いとなるよう。
4	・安否確認や見守りを通して顔見知りになる。近隣住民の協力を得て緊急通報システムを設置。
5	・日頃から近隣と関われる機会を増やす。

他多数

3 地域の高齢者や障がいのある人の把握について（20 件程度）

NO.	内容
1	・各班ごとに班長などがいるので、班長が各家庭の家族構成などを知っておけば良いが…（プライバシー侵害になることもあるので）。
2	・高齢者世帯の状況把握、情報共有。
3	・支援が必要な高齢者のリスト化を行い、自治会などで把握しておく。
4	・どの家に高齢者や障がい者がいるのかを把握できる仕組みづくり。
5	・高齢者の心身の状態を把握し、災害時に支援できる家族が誰か、また援助できるような近くの方々との避難方法などを検討し、話し合っておく必要がある。

他多数

4 避難経路・場所の確認や避難所運営について（12 件程度）

NO.	内容
1	・日頃から災害に備え備蓄品を準備しておく。高齢者への避難場所の確認・徹底。避難することによるメリット・デメリットの確認。
2	・災害避難場所の明確化や身体状況に応じた備蓄品の準備、食事形態に応じた食料品の準備、内服薬などの把握ができるようお薬手帳の準備などができるよう前もって家族などに伝えられるようにしていただけるよう、日頃からの連携が必要かと思えます。
3	・避難所が密にならないように配慮してほしい。
4	・災害時に避難する場所の再確認と高齢と各高齢者の移動能力がどこまであるか知っておく。・家族の連絡先を把握しておく。・薬の件、健康状態の把握。
5	・どこにどう避難すべきかをもっとわかりやすく提示してもらい、周知する。

他多数

5 要援護者の把握と支援ネットワークについて（11 件程度）

NO.	内容
1	・日頃から、独居や高齢世帯の方と民生委員さんが連絡を取り合い、災害時の対応などを説明しておく。
2	・要介護状態の方の避難は難しいこととは思いますが、以前問い合わせをした際には対応していただいたので、個別でもきちんと対応していただけるのだと確認できました。今後もこの対応を続けていきたいと思えます。
3	・になるとは思いますが、どこに誰がいて、どの程度の状態なのか、その情報をきちんと周知できて更新しているのか、災害の際は誰がかけつけるのかなど決めているのかなど。
4	・要援護者の確認と災害時に救援が必要な方の把握、家族が日中不在などで1人になるなどの把握が必要かどうかを確認。また、避難場所の確認。 取り組み：避難所の環境の確認を整える（イスの有無、個室の準備、階段や段差の解消）。
5	・地域の要支援、要介護者の把握をし、個別の避難方法を考える。

他多数

6 情報発信、周知について（11 件程度）

NO.	内容
1	・災害が起きたときだけでなく、常日頃から避難所などの情報を提示すべき。 ・1人では避難が難しい人に関する情報くらいは周囲に知らせておくべき。
2	・近隣同士の声かけや、どの世帯に高齢者が居住しているかなど把握が必要で、情報が共有できるよう（個人情報にかからない程度）に工夫し、支援活動を円滑に実施する必要があります。
3	・隣組範囲で公民館で勉強会を開き、参加者には地域で使える振興券をプレゼントする。
4	・ハザードマップの充実、訓練の回数を増やす。
5	・ハザードマップなどの把握。・避難訓練の実施。

他多数

7 その他（11 件程度）

NO.	内容
1	・高齢者が多い地域＝支援活動をする人が少ない。 災害のときは地域全体が被災するので、近隣の市町村で支援連携体制を整えてほしい。
2	・マニュアルをしっかりと作り、定期的に更新しておくこと。
3	・身体状況の把握、ケアマネや介護保険サービス事業者との連携。
4	・地域全体で防災に対する危機感を持ちながら、協力体制のもと取り組む姿勢が重要です。
5	・最近の災害については予測できない被害が起きているため、難しい問題だと思います。 高齢者施設は不便なところに立っていたり、立地条件にも影響し定期的に「もしものとき…」を話し合うしか（知恵を出し合う）ないのでは。

他多数

Ⅸ. 認知症の人を支えていく取り組みを充実させるために地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

1 理解促進について（65 件程度）

NO.	内容
1	・大牟田市のように地域をあげて認知症の人を支えていけば良いと思いますが、地域性もあると思います。認知症の人（症状など）をどれだけ多くの地域の方が理解していただけるか？！協力していただけるか？！かなり難題ではないかと思います。
2	・認知症だという病気を理解してもらい取り組みが大切だと思います。
3	・まず、一口に認知症といってもさまざまなケースがあり、接してすぐわかるような方もいれば、日常会話ぐらいなら問題なくできるため、わかりづらい方もいると思います。また偏見を恐れ、認知症を持つ家族がそのことを隠している場合もあるので、まずは地域全体がきちんとした認知症の知識を持ち、いざというときに周りに助けを求めやすい環境にしていくことが大切だと思います。
4	・「認知症」を地域住民が知ることが大切。 ・「認知症の人が起こしてしまった事故や事件の責任をどうするか」の問題をはっきりさせておかないと、関わることに二の足を踏む人も多いと感じる。
5	・認知症についての理解が必要。対応の仕方などが学べる機会が必要。

他多数

2 見守り支援について（20 件程度）

NO.	内容
1	・徘徊を考えると周囲の人の認知があれば発見も早くなり、大事に至りにくいと思う。ただ、認知症の人を支えるということはそんなに簡単なことではないと思う。地域うんぬんよりも、まず介護者を直接的に救うための政策を考えるべき。
2	・認知症の方も、家族の方もプライバシーがあるので、取り組みというよりも優しく見守っていくことが大切ではないでしょうか。
3	・認知症に限らず関心を持つこと。何か様子の変な高齢者がおられたら声かけするとか、警察に知らせる。
4	・隣近所との助け合い、認め合う活動を常日頃から行う。 周囲の人の温かい見守りや声かけをし、地域の仲間としてその人らしい生活を継続させる。
5	・認知症の方がどの家の方かなど把握してもらおう。徘徊する場合は近所の方に見守りをお願いする。

他多数

3 認知症の人やその家族と交流する機会づくり（6 件程度）

NO.	内容
1	・認知症の人や家族が集い、オープンに話せたり、相談ができたりしやすい場所をつくる。 ・大牟田市のように認知症の人と地域の連携がうまくいっているところの話や聞くなどの機会をつくる。そして参考にする。
2	・サロンの充実。
3	・地域のさまざまなサービスや地域資源を活用することで、安心して生活できる可能性が広がる。 ・地域でのいろいろな世代の方が気軽に挨拶や声かけができる環境づくりをする。
4	・家族が認めなければ難しい。コロナ禍の中で大変だが勉強会などを行い認知症の知識は必要だと思う。
5	・日頃からの交流。

他多数

4 認知症の人も地域で当たり前で暮らせる環境づくり（5 件程度）

NO.	内容
1	・認知症の人がコミュニティの中であたりまえにいるという（ノーマライゼーション）活動を広げる。
2	・認知症の独居高齢者が増えている中で、介護サービスにつながっていない方も多くいらっしゃると思います。認知症があっても安心して生活できる取り組みを考えていただいたりしながら、この地域なら不安なく生活できると考えていただければと思います。
3	・症状は人それぞれ。隠さない、特別扱いしない、近所に知らせる。まずはやっかいだと思わせない。
4	・認知症の方を 1 人の人間として敬う社会（地域）でないと。言葉ではたやすく支え合うような取り組みなどと言っているが、まずは差別や偏見をなくす姿勢が大切だと思う。
5	・地域内での交流があることは、人を孤立化させない。認知症になっても暮らしやすい関係性を築いていくことが大切だと思う。

5 徘徊時の早期発見について（3件程度）

NO.	内容
1	・訪問サービスなどで家族との話し合い。 近所周囲にその人の病状を簡単に説明しておくのが良いのではないかと。 徘徊をされたときのために住所、電話番号を記入したものをぶら下げておくか、GPSが入った靴などを準備したらどうでしょうか？
2	・徘徊者早期発見のために写真を配る（施設や店舗）。
3	・福岡県内の別市で、24時間365日、認知症の方の徘徊に付き添うというサービスを展開されている事業所があります。徘徊する期間はだいたい6ヶ月～1年程度と言われ、その時期をクリアすることで徘徊がなければ在宅で最後まで介護が可能な家も多いということで対応されているようです。夜間の徘徊にも、事業所スタッフだけでなく、地域の有償ボランティアの方なども対応され、交代で付き合われるそうです。

6 その他（14件程度）

NO.	内容
1	・住民が認知症に対して知識を深め（何かいつもと違う行動をしているなどに気付いてもらえる、徘徊などの問題行動に対して早く解決できるなど）事故にならないようにしていくことが必要だと思う。
2	・要介護度の認定について、ADLだけでなく認知症の程度を重視した認定を行い、認知症の人を支えるためのスタッフを増やしていく。
3	・難しい問題です。行政が考え我々に問うのなら考えますよ。頭ごなしにどのようにすれば良いかと問う前に行政の姿勢・考えを教えてください。
4	・公民館などでの介護士になる説明会などを月1回程度行う。
5	・地域で同じような悩みを持つ人々で集まり、意見を出してそれに対して解決策を考えていく。

他多数

X. 高齢者虐待を防止していくため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

1 相談しやすい環境づくり（20件程度）

NO.	内容
1	・暴力などの虐待で近所の方に物音や悲鳴が聞こえれば市に相談できると思うのですが、心理的虐待、経済的虐待、ネグレクトなどの虐待については地域の方が虐待に気付くことは難しいのではないかと考えます。介護サービスを受けることで高齢者の自宅での様子や本人の変化に早く気付けると思います。
2	・感じたりしても、実際虐待にあたるのか？通報することに勇気が必要。民生委員や地域（区長・班長）の方に相談できるように声かけしていただく。
3	・虐待が疑われているときの通報が必要と思われる。どこに相談したら良いか、どのようなことがみられたら虐待を疑う必要があるのかをなるべく多くの人を知っておく。
4	・相談窓口をつくる、多くの人に知ってもらえるような仕組みをつくる。
5	・市の包括支援センター、民生委員、自宅訪問や高齢者のお宅へ何かあれば相談できるように連絡先を提示する。

他多数

2 介護している人の精神的・身体的負担軽減について（16件程度）

NO.	内容
1	・結局は介護者のストレスをためさせないためにどうするべきかということだと思う。近隣にはけ口となる人がいる人はまだ良いが、そうでない人も多いと思う。地域うんぬんの話ではないと思う。虐待する人もしたくてするわけじゃない。
2	・介護側が頼れる場所づくり。
3	・虐待は介護負担が重すぎると起こると思うので、介護サービスを提示、サービスの紹介を行っていく（地域や介護者に）。
4	・介護者の負担を軽減していくサービスが必要と思われる。 子育てだけでなく、ファミサポみたいに高齢者を対象とするサービスがあっても良いのではないかと思われる。
5	・デイサービス、訪問などを利用して負担をなくしていき、関わる時間を減らす。

他多数

3 見守り、声掛けについて（15件程度）

NO.	内容
1	・明らかな虐待があれば、誰もが行政や警察に連絡できるような地域の見守りが必要。
2	・自宅訪問、声かけ、電話。・周囲の見守り。
3	・地域の方々の日頃からの見守り、何か変化があったときに役所などに相談・通報などを行う。
4	・地域の見守り、声かけによる支え合いの地域づくり。
5	・高齢者世帯を孤立させないように、日頃からの声かけ・見守り支援。

他多数

4 日頃から地域とつながりを持つことについて（12件程度）

NO.	内容
1	・できれば地域との交流が必要。
2	・高齢者に限らず普段から地域内のコミュニケーションがとれることが大切だと思います。
3	・常日頃から地域での交流活動を活発に行う。・自宅外に出ない人の虐待は発見が難しい。
4	・高齢者とのふれあいの機会。
5	・近隣で高齢者が住まれている地域に関心を持ち、できる限り関わり、コミュニケーションをとっていく。

他多数

5 訪問などによる状況把握、支援について（6件程度）

NO.	内容
1	・地域包括支援センターとの関わりを密に持ち、少しでも疑いのある方とは一緒に訪問するなどして状況を把握することも大切かと思えます。
2	・民生委員による訪問、ケアマネジャーの訪問を増やす。 コロナ禍でむしろ少なくなっているのは、虐待を増やす原因にもなる。
3	・訪問サービス、市の行政が虐待をされている家に訪問をされていると思いますが、どんな会話をされているのかはつきりわからないのですが、虐待がひどいときは施設、デイサービス、グループホームなどの説明が必要です。また、なんで虐待をするのか親身になってお話を聞いてもらうと良いです。
4	・声かけや訪問。
5	・老人会などへの参加を促したり、近所の聞き取り、訪問介護保険サービスの利用や市の訪問介入が必要。

他多数

6 問題を一人で抱え込まない環境づくりについて（6件程度）

NO.	内容
1	・介護に対して何か問題が起きたときに気軽に相談できる相手を地域内につくっておくだけで違うと思えます。1人で抱え込むような環境をつくらない取り組みができれば良いです。
2	・隣近所の風通しを良くし、心配なことがあったとき、お互いに気軽に相談できる人が必要だと思う。
3	・虐待が起こるときは1人で抱えてしんどいのだと思う。虐待はしてはいけないことだが、どう困っているのかを判断していく目が必要。介入しやすいような関わりを築いていく取り組みが大切だと思う。
4	・家族が問題を抱え込まないよう、当事者・周囲の人が包括に相談する。
5	・高齢者と家族への寄り添いサポート。

他多数

7 介護サービス事業所、行政、地域の連携強化（5件程度）

NO.	内容
1	・家族や高齢者の孤立化を防ぐ。・介護施設との連携→行政との連携。
2	・施設職員、ヘルパーによる観察の強化と報告の徹底。 ・行政による家庭訪問と相談を増やす。 ・虐待及びネグレクトについての（一体どういうことがそれにあたるのか）啓蒙活動。
3	・さまざまなサービス関係者による広い目で見守ってあげる。
4	・行政・地域の連携が最も大切。
5	・デイ（施設）とケアマネより情報交換・多施設利用ならデイとデイの情報共有

他多数

8 その他（25 件程度）

NO.	内容
1	・虐待を見抜くことは難しいと思います。見たり、聞いたりと確信があれば良いが、陰で行えばわからない。
2	・難しくわかりません。
3	・虐待防止キャンペーンを展開する（市報で定期的に掲載する）。
4	・どのような取り組みが現在行われているのかわかりません。オープンに誰でもわかるようにできたら良いと思います。良い取り組みがあっても発信されないと無意味だと思います。
5	・虐待を発見したら市に連絡を行い、原因などを考え地域で検討していく。高齢者を保護し安全を第一に考える。

他多数

XI. 高齢者（日中独居高齢者やひきこもりがちな高齢者など）の孤立化を解消していくため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。また、行政からは、どのような支援が大切であると思いますか。また、地域で孤立の解消に至った事例があれば教えてください。

1 趣味活動、サロン活動など居場所づくりについて（24 件程度）

NO.	内容
1	・何でも話せる仕組み（茶飲み友だち状態）をつくり、そこから問題点をみつけ解決に持っていく（プライバシーの侵害になることもあるので注意が必要だと思うが）。
2	・高齢者や地域の人と一緒に気軽に話せる場（交流場、サロン）などがあると良いと思う。
3	・高齢者が気軽に足を運べるようなサロンがあったり、見守りパトロールなどがあると良いと思う。
4	・人それぞれ好みが変わりますから、種々多様なものを考えて、笑いが出るような明るい雰囲気をつくってほしい。とにかく笑うことです。
5	・新型コロナ感染で公民館の集まりも少なくなっています。月1回でもサークル活動があるときは必ず声かけして、自宅まで迎えに来てもらえると参加していた事例あり。

他多数

2 見守り支援について（16 件程度）

NO.	内容
1	・郵便局見守りサービスと行政が締結したという報道がありました（香春町）。太宰府もいかがでしょうか？
2	・安否確認などの見守り隊（サークル）の声かけを定期的に継続的に行う。公民館などの交流会（食事会）。
3	・介護サービスを嫌う方も多いので地域の方が声をかける。または、安否確認のできるボランティアを募り活動につながる。
4	・日頃から組内で声をかけ合える地域づくりを推奨していく。行政からは、民生委員や福祉委員の活動をサポートできる体制があればと思います。
5	・ボランティアの地域交流があれば、少しは気持ちが前向きになっていくし、社会的に否定されないことで、自分の価値があることに気付いていくと思います。体制づくりを急ぐ必要あり。

他多数

3 介護サービス等の利用について（11 件程度）

NO.	内容
1	・デイサービスなどのサービスを促すのが一番だと思う。まずは、自分たちの思う良いデイサービスをつくれるような制度の改正や支援を行政がすることが必要だと思う。
2	・行政が高齢者が集って仕事ができるような仕事のシステムをつくったら良いのでは？人間は人の役に立つことや必要とされていることに生きる喜びを生み出すことが多いと思います。
3	・福祉サービスの利用を促すため、自宅への訪問、説明、アンケート、施設の紹介、娯楽施設、カフェ、集い、直売所、宅老所、子どもたちとのふれあいの場、声かけ浸透。
4	・デイサービスの利用をしてもらう。
5	・高齢者が参加したくなるイベントを用意し、参加していただく。その際、できるだけ地域からの情報をわかりやすく伝え、孤立しないように支援する方向へ進め、介護サービスなどを利用し孤立化を防ぐ。・ご近所同士での声のかけ合い。

他多数

4 地域交流について（10 件程度）

NO.	内容
1	・高齢者の中には、福祉サービスを受けることを嫌ったり、不安がる方もいらっしゃいます。そういった方はなかなかサービス利用につながらなかったりするため、やはり地域（隣近所）の方が日頃から交流をして安否確認ができることが理想です。
2	・町内会などの呼びかけで地域住民の誰もが挨拶を交わし、顔見知りになる取り組み。 ・支援が必要な高齢者への気付きや見守りの活動。
3	・老人会への参加の促し。・気軽に参加できる場所（催し）。
4	・子どもたちとふれあう機会を増やす。
5	・地域の公民館での行事。高齢者の住まいの把握・調査を増やす。

他多数

5 訪問型の支援について（10 件程度）

NO.	内容
1	・元来の性格で他者との関わりを拒絶する人もいる。 ・民生委員や行政の定期的な訪問の取り組みが必要。
2	・対象者のリスト化と定期的な訪問システム、地域での目配りや声かけなどの取り組みが必要だと思います。
3	・高齢者への訪問を増やす。また、地域住民への聞き取り調査を通して独居高齢者の存在を把握すること。
4	・元来の性格で他者との関わりを拒絶する人もいる。 ・民生委員や行政の定期的な訪問の取り組みが必要。
5	・民生委員などの自宅訪問。定期的に継続すれば少しは心を開いてくれるかも。気まぐれではだめだと思う。

他多数

6 就労、活躍の場づくりについて（4件程度）

NO.	内容
1	・孤立化対象の高齢者の状態にもよりますが、介護が必要ではない高齢者の場合は、その方が活躍できる場、または集うことができる場を提供（趣味、食事、簡単な仕事（野菜作り、掃除など））。 介護を必要とする人もしない人も地域にどういった高齢者が住んでいるのかの把握が必要ではないかと思います。
2	・定年後などに自宅にひきこもる例は多く聞かれる。認知症や運動機能の低下を防ぐことも大切で、社会参加を積極的に行い、他人との関わりや本人が興味をもつ場所の提供などを行っていただきたい。
3	・ボランティアヘルパー派遣（退職したがまだ元気な方々、60～70歳代の方々に協力していただく）。
4	・若い人でも仕事がない日にひきこもる人はいるので、仕事をしてもらうことがあればしてもらおう。

7 その他（11件程度）

NO.	内容
1	・ひきこもりの方に外出を促すのは難しいと思います。巡回して1人ではないことを伝えたり、訪問しなくても話せるリモートを活用する。
2	・集団での生活や交流が苦手な方もいらっしゃいますので、一概には言えません。行政の方にも状況の把握をしていただきたいと思います。
3	・太宰府市は住宅地も山手が多く、坂道が多いため、車や交通手段がないと外出しにくい環境にあると思います。 認定を持ってある方は、送迎ありの通所サービスの利用も可能ですが、認定のない方など、外出する手段がない方も多いようです。例えば、老人福祉センターの送迎や乗合バスのような移動手段の確保ができるサービスから始められるのはどうでしょうか。
4	・孤立を悲しいと思う方もいれば、1人を好む方もいる。 1人を好む方の場合には緊急時の対応をおさえておく。
5	・取り組みが難しい利用者は、管理者や主任が受け持たれるので、ケアマネとして関わることが少ないと思います。

他多数

XII. 貴団体の活動の際に地域住民やボランティアの協力があるといいと思うことがあれば教えてください。また、支援が必要な高齢者やその家族に対して、どのような地域住民やボランティアの力が有効だと思えますか。

1 見守り支援（19 件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアといっても、当施設内で直接利用者の方と接してもらう（会話など）のは、利用者の認知や病状・性格などがあるので、簡単なようではありますが難しいと思います。行事、例えばもちつき行事の場合、もちの丸め、もちのつき手。通常であれば雑用や掃除などを手伝ってもらうと助かります。 ・地域ではゴミ出しや草取り、簡単な家事など定期的に声かけしてもらうと見守りも兼ねて良いと思います。継続することは難しいので、どこまでボランティア地域の方にお願いできるかが課題になると思います。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に温かく見守っていただき、外で会えば挨拶や声かけなどをしてもらえれば十分だと思います。 ・支援が必要な高齢者や家族に対し声かけや行政サービス情報などを教えたり、相談に乗ったり、話を聞き行政サービスにつなげる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による見守りの目がとても大切であり、支援が必要な方々が安心して相談ができるボランティアの育成。正しい知識を持たれたボランティアや地域住民の守る力が有効だと思われます。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の高齢者が1人で外出し行き先がわからないときの地域の方からの情報など。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の方で認知症がある方は特に、デイサービスやヘルパーが入らない時間など1日1回でも見守り・声かけをしていただければと思うことはあります。変な勧誘などに騙されるケースもあるため、行政の方も出入りしていることがわかれば予防の1つになるのではないかと考えます。

他多数

2 レクリエーション、趣味活動（14 件程度）

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・単純にレクリエーションのようなものをしてくれる方々が来てくれるとありがたい。利用者にもいつもと違う刺激があり、活性化につながるし、その時間スタッフに余裕が生まれる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と変わらない年齢の方が歌、踊りをされたとき、利用者様はみんな喜んでいました。硬く考えなくても良いのではと思います。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・囲碁・将棋ができるボランティアの方などがいると男性利用者など喜ばれると思います。今はコロナ禍なので施設内に入ることは難しいと思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所内施設で行われるサロンにてともに歌や制作を楽しんでいただけるボランティアの存在はとても大切だと感じます。 ・ハンドマッサージもとても喜ばれました。世代の近い方の活動には親しみが感じられるようです。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・今は外部の方の入館制限を行っていますが、園芸や洋裁（繕い物）のボランティアに来ていただいております。

他多数

3 家事や日常生活における困りごとへの支援（13件程度）

NO.	内容
1	・ゴミ出し（重いものが持てない、認知症でゴミ出し日がわからない）。
2	・ヘルパーさんでできないこと（電球交換、庭の掃除など）を頼めるところが近くにあればより安心して生活できると思います（独居や日中独居の方など）。
3	・ゴミ出し、買い物、送迎、電球の取り換え。 →日常の細々したこと。低料金もしくはチケット制。本人もこの仕組みを理解し、利用できると良い。
4	・地域での高齢者への炊き出しや弁当配布などを行なっているが、ボランティア側にも何らかの補助的な予算などがないと活動はできない。具体的に、実際に地域で助け合っている地区をモデルに行政が指導を行っていく。
5	・不燃ゴミ・粗大ゴミ捨て、傾聴ボランティア、目の悪い人への代読、電球交換などの軽作業（昔はまちの電気屋さんや酒屋さんがやっていたような御用聞き的な…）。 ・挨拶を毎日かわす人がいるだけでも良い。地域の廃品回収、新聞配達、会社のリサイクルなども有効だと思う。

他多数

4 若い世代との交流（6件程度）

NO.	内容
1	・保育園、幼稚園、小・中学校生との交流。・高校生、大学生のクラブ活動からの訪問。 →高齢者を身近に感じられる。高齢者もいきいきする。 ・高齢者と交流（一緒に買い物に行ってくれる）してくれるボランティアは良いと思う。 →家族や高齢者が必要だと思うなら有効。
2	・子どもを含め、若い世代との交流があれば良いなと思います（コロナ禍で難しい面はありますが）。
3	・老人会の援助。公民館、コミュニティ活動全てに若い人の考え、ボランティアが必要。地域活動をしている人の大半が高齢者という現状を確認してほしい。
4	・軽作業、話し相手などのボランティア、特に子どもたちが好評です。
5	・太宰府にはいくつも大学や高校などがあるので、学生さんのボランティアがあると活気がでると思います。

他多数

5 送迎や買い物付き添い・代行など（4件程度）

NO.	内容
1	・通院介助ボランティア。
2	・移動サービス（買い物同行や通院サービス）。その地域住民やボランティアの同行運転支援に傷害の保険もきちんとつける。
3	・明るく声をかけてくれる人、買い物ボランティア、散歩と一緒に付き添うボランティア、運転してくれるボランティアなど。
4	・誰もしがネットを活用できるわけではないので、買い物代行が必要だと思われる。

6 その他（20件程度）

NO.	内容
1	・利用者家族との会話をする機会の減少。
2	・何かをしてほしいというより、施設のことを理解して見守っていただけるとありがたいです。急に大声を出したり、徘徊して私有地に足を踏み入れてしまったり、きちんと対処していても防げないことがあったときに少しでも気持ちをおさめていただけると助かります。
3	・登録制にしてはどうか？ある研修をして最低限の心構えは事前に必要です。デイサービスでは体操・食事・トイレ・お風呂・囲碁・手工芸・塗り絵・脳トレなどにしています。
4	・できるだけ多くの方々に参加してもらうことが有効手段だと思います
5	・地域住民の方がボランティアは各団体で依頼していると思う。いろいろな方に依頼したいがあまり知らないこともある。

他多数

XⅢ. 現在の新型コロナウイルス感染の状況下において貴団体の活動に最も大きな影響を与えている事柄（例：相談や訪問機会の減少、人手不足、経営状況の悪化 等）は何ですか。その上で今後、地域福祉活動の推進を進めるうえで取り入れるべき視点（考え方・行動）があればご記入ください。

1 面会制限、外出制限（15件程度）

NO.	内容
1	・外出機会（散歩、ドライブ、レストランでの食事会など）がほとんどゼロになっており、デイサービスに通う高齢者たちの活動が大きく制限されていること。
2	・外出先の減。
3	・ご利用者がご家族と直接面会できない、イベントの中止。 地域福祉活動としてどのような活動が行われているのか知らない人が多いと思う。 いろんな世代にあった告知をして関心を集めた方が良いと思う。
4	・催し物、会が減ったこと。外出の機会が減ったこと。
5	・外出や受診の制限。家族へ面会中止の要請。

他多数

2 人手不足（14件程度）

NO.	内容
1	・面会の時間短縮。人員不足。
2	・人手不足。いろいろな職種がある中で、わざわざ介護を選ぶ人が少ない。介護の仕事を選ぶきっかけや、手だてがあればなと思う。
3	・2度に渡る緊急事態宣言のため、サービスの利用控えによる利用者の減少や必要時に自宅訪問による相談業務ができず、実態がつかみづらい現実など、大きく影響しております。また、人手不足により、1人の稼働内容の増など大変厳しい状況です。福祉活動及び業務を安定させるため、人材の確保や安全に相談業務ができる場所の提携を取り入れるべきではないかと思えます。
4	・人手不足、介護現場ではどの施設でも人手が足りません。給付金支給の前に介護現場に労働力を斡旋してほしい。
5	・行事などの中止、人手不足。

他多数

3 サービスの利用控え、活動への参加減少（13件程度）

NO.	内容
1	・利用者数の減少。・自宅訪問機会の減少。
2	・コロナを心配されお休みされている方がいる。
3	・サービスを利用する人が減った。
4	・訪問機会の減少、利用者との交流、他事業所との関係が薄くなっている。情報交流が少なくなっている。通所サービスの利用を控えている。
5	・感染の不安→対策。・利用者の減少。

他多数

4 訪問型の支援、活動の減少（8件程度）

NO.	内容
1	・訪問機会の減少、人員募集しても希望者がいない。
2	・訪問機会の減少、電話での聞き取りだけではわからないこともある。 ・今後しばらくは感染対策を考えた上での活動が必要と思われる。
3	・訪問時は生活状況をみて気付くことも多かったが、訪問の機会が減少し、細やかなサービスにつなげることが難しい。
4	・訪問の機会減少による利用者のADL低下。
5	・短時間の訪問に限定されること。

他多数

5 消毒、洗浄などの雑務の増加や費用負担の増加、物品の不足（7件程度）

NO.	内容
1	・やはりコロナに対する恐怖心や不安など、心労面がきつい。あと、単純にコロナ対策にかかる費用が問題だと思う。
2	・人手不足、消毒物品不足。
3	・面会の制限、外出行事などの減少、消毒や洗浄などの雑務の増加。
4	・いつ感染者が出るかとの不安がある。 ・感染防止対策に関わる費用や手間の負担が大きい。
5	・ボランティアの来訪激減。・細めな消毒や活動の制限。・人の心の荒廃。

他多数

6 訪問型の支援、活動の減少（5件程度）

NO.	内容
1	・訪問・接触し高齢者に感染させてしまうリスクが生じると、なかなか日常生活の実態まで細かく話を聞いたり、見たりすることが難しくなった。
2	・訪問し支援していた家族が訪問できなくなり、孤立や日常生活のことが困る（例：買い物や体調管理）。
3	・訪問ができず、声だけで健康状態を把握しなければならず、デイサービスやヘルパーの報告が大変助かった。
4	・訪問機会の減少。・直接見ないとわからないこともある。・TELでのやりとりができない方は特に。
5	・訪問機関の減少により、状態の正確な把握がしにくい状態が増えました。人々の交流が途絶える中で、ニーズの把握が難しいです。アウトリーチが今こそ必要ですが厳しい状況です。

7 サービス利用者の感染症対策（4件程度）

NO.	内容
1	・当施設でも消毒、マスク着用は徹底していますが、認知症の方で説明してもマスク着用在が難しい利用者もいます。ただ介護の現場では利用者の方と密に接しないと介助ができないのと、担当が決まっているわけではないので、たくさんの利用者にはほぼ全スタッフが関わるので100%の感染（クラスター）は間違いありません。いつくるかわからない感染に不安を感じ仕事をしています。小さい事業所なのでコロナ感染になり営業できなくなれば会社の存続・生活が困ります（風評被害も心配です）。
2	・行事を実施できないこと。 ・マスク装着を嫌がる方につけていただかなくてはならないとき。
3	・マスクを使用することが徹底できていない。1人発生するとすぐに充満してしまいがち。
4	・消毒液や使い捨て手袋が高騰していること。支給もあると情報はいただいているが、支給の条件に合わないのでは意味がない（対象条件に販売店に在庫がなく注文できない場合や注文をキャンセルされ、手に入れることが難しい事業所とあり、高い金額を出せば商品は手に入れることができるため、支給の対象にならないと考えているため）。その他、認知症の方にはマスクの使用が難しいため、他利用者との兼ね合いや、周辺住民の方からの目や指摘されたときの説明が気持ち的に負担になる。

8 不安、恐怖心などの心理的負担（3件程度）

NO.	内容
1	・感染者が出ないように日々感染予防を行っているが不安がある。
2	・人手不足、感染不安、いろいろあり過ぎて不安。精神的に辛い。考え方、行動は市民の声を聞いて対策の手。
3	・利用者や家族の精神的不安の増加。 一方、今までの仕事の流れではなく、リモートや書類上のみでもやり取りができることがわかった。必要のない不要な訪問、面会の減少は仕事率が上がる。不要な事務処理は縮小していく。

9 その他（20件程度）

NO.	内容
1	高齢者やその家族が必要としている施設などを見学や相談に行くことができない状況である。行政の方で訪問や相談ができる施設を把握していただき、適切なサービスができる施設を紹介してほしい。
2	今のところコロナウィルスの感染者もなく利用者の減少もない。
3	利用者参加人数減少による利益の減少。
4	コロナで特に手間が多くなった。それに加えて、4月から運動加算が変わる。正直レベルに応じたグループ（4～5人）という条件は職員の配置が非常に難しい。現場に即してないやり方です。
5	高齢者、ひとり暮らしの方へ定期的に電話をし、お話が聞けるような体制をとる。

他多数

- 地域と行政が共に支えあい、すべての人が地域社会で安心して暮らすことができる「ここに住んでよかった。住み続けたい。」と思える「福祉のまちづくり」を進めていくため、太宰府市に対するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、行政サービスなどどんなサービスがあるのか?!どこまで支援できるのか?!どんな活動をしているのか?!など介護をしている私たちもわからないので、一般の方はもっとわからないと思います。 ・介護サービスの話になりますが、現場では介護保険法にはない状況のことが起こっています。法律がそうなっているからサービスはここまでと割り切ることができなことがあり、市に相談に行きますが法律がどうということばかりです。結局サービスにはつながらず、その問題にかかる時間は無駄になります。利用者を放り出すことはできません。市も一緒に真剣に向き合ってほしいです。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここに住んで良かった。住み続けたい」と思わせるために考えるべきはもっと違うことだと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・老後の心配のないまちづくり。たとえお金がなくても暮らせるまちづくり。デイでも宿泊施設でも低料金で利用できるよう行政が力を入れる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートの回答に何度か書いたように、人はそれぞれ性格も違えば、住んでいる環境も異なります。介護に対してこれが正しいという答えはないと思っています。できる限り1人1人に寄り添い、一方的なサービスにならないよう、私たちも、地域や行政も考えていかなければならないのではないのでしょうか。太宰府市には、そんな柔軟な考えのできる福祉を目指してほしいと思います。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、10代20代の若者が介護者という内容のテレビを見たことがあり、そのため学業や就職に影響が出ていました。太宰府市ではどうなのかわかりませんが、今後はそのような問題も出てくるのかもしれないかもしれません。若い人の将来を妨げてはいけなくてテレビを見て思いました。各家庭や個々に合った細かい相談がしやすい環境づくりをお願いします。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の理解、日常生活の実態や介護予防、健康管理。 ・外出しやすい環境づくり、バリアフリー。 ・窓口の設置、送迎、通院、連絡。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を支えていく介護側に目を向けた取り組みがもっと増えれば良いなと思います。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・声無き声に耳を傾むけていただきたい。同じ事例はなく、一人ひとり、一世帯一世帯の顔があります。表面だけではなく、一歩前進した福祉を目指していただき、より良いまちづくりができますよう心より願っております。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場の人手不足に対し、 ・施設基準、人員配置基準の緩和 ・労働力の斡旋 ・労働環境の改善指導をしていただきたいです。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・人権やプライバシーを尊重しつつ、互いに関心を持って生活するような風土づくり。 ・福祉関係の職員の待遇改善。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生、その保護者、高齢者が一同に会するイベントを開催されると良いと思います。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・電話でも窓口でも相談させていただく際に相談しやすい環境をつくっていただきたいです。相談しやすい環境があることで良い案も出てくるかと思えますし、そうなることでより住みやすい地域になっていくのではないかと感じます。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉にお金を使ってください。 ・太宰府の財政がどのような状況かわかりませんが、収入に大きな増は望めないと思うので、無駄な支出を減らせるよう考えていただきたいです。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・まほろば号のダイヤをもっと増やすべき。1時間に1本だと寒空で待ちぼうけている高齢者を見かけることが多い。

NO.	内容
15	・今後もますます高齢者世帯は増加していく。そんな中、次第に地域から孤立していく高齢者を少しでも出さないために、“食事やリハビリや楽しみな活動を提供できる場”を多く用意できれば介護予防にもつながっていくのではないかと思います。
16	・北九州市のように、高齢者の雇用拡大、保育・医療・福祉の充実を目指す、高齢者が活躍できる場を増やすことで、地域内での関わりも今よりは増えるのでは？
17	・行政が地域に対して、高齢者中心の介護負担軽減を考えていくことで、その家族からも信頼を得られるのではないかと考えます。
18	・レベルが低いと職員が多い、レベルが高いと職員が少ない。これだと勤務シフトができません。同じレベルの人しか受け入れづらくなる。サービスの硬直化を招くのでは。
19	・高齢者、学童、誰でもいつでも行ける場所の提供。 ・ひとり暮らしの高齢者へ安心サービスの通報ベルの設置。 ・移動スーパーでひとり暮らしの方の買い物ができるようにする。
20	・このアンケートはケアマネ、各家庭にご配布されているのでしょうか。もしされていないようであれば、配布され、各家庭でのコメントをいただいた方がよろしいと思います。
21	・市民の方々が声をあげてもそちらに届かず、あきらめている市民の方がいます。予算などの関係もあると思いますが安心して住める他の地域の方が移住してくるようなまちにしてください。
22	・地域間、事業者間の情報共有。
23	・太宰府市は大学が多くあるも、学生を上手く活用できていないと思う。今、大学同士の連携や行政との連携が必要。大学も学校内での活動は広報などでアピールをしているが、校内の方が多と思うし、外部に出て行っていない感じがする。全てにおいて行政と一緒に居宅支援事業所の関与を明確にしてケアマネージャーをうまく利用することで上手くいくのではないかと（いろいろな情報を持っているため）。太宰府市で開業している居宅支援事業所の必要条件にしてはどうか。
24	・人は1人では生きていけない。1人で育ったわけでもない。みんな赤ちゃんや子どもの時代があり、いつか高齢者と呼ばれるようになる。病気やケガをすることも。元気で生活できることがあたりまえではないことを全ての人が理解するともう少し他人に優しくなれるのではないかと。 詳しくはわからないが、景観条例もあるし、高層マンションは少なくしてもらい、人と人が安らげる緑の多い公園などを増やしてほしい。
25	・太宰府市に住んでいれば受けられるサービス（独特性のもの）。周辺地域との連携（周辺との差をなくす）など。
26	・福祉課の方とは関わったことがありますが、いろいろなところの間に入り大変な思いをされているのだなと思うところがありました。救われた方もいらっしゃるはずですので、これからも頑張られてください。
27	・介護サービスや社会資源への予算を上げてください。
28	・地域の方が親切だと「ここに住んで良かった」と思うでしょう。少々税金が高かろうが親切な人が住む優しいまちに住みたくと思います。高齢者や障がい者にお金をかけるのではなく、現役世代の教育につかっではどうでしょう。漠然としていて申し訳ございません。
29	・太宰府の顔ともいえる市役所の中に入ると薄暗い。建物自体が古いので、せめて照明などを工夫して明るく風通しの良いイメージにしてほしい。
30	・60～80代で元気な高齢者は多い。健康寿命を延ばすためにもボランティア活動は有効だと思う。活動内容の幅を広げ、ボランティア登録から活動までスムーズにできるようにする。高齢でも支援する側で活動する人が増えると良い。
31	・高齢者が住めるマンション（アパート）で、マンション内に病院やデイサービス、レストラン、ヘルパー事業所などの併設で、軽度の方が安心して住める場所があれば良いと思います。

NO.	内容
32	・市内の医療機関の充実。
33	・地域共生社会。
34	・個人的には「福祉」という言葉がつくと「何かしてもらおう（無償で）」という印象がある。ときどきなんでもしてあげなければという人もいる。勉強不足かもしれないが、何か他の言葉で置き換えられないかと思うことがある。 自治体の窓口や組織名はしっくりくるが、スローガンなどになると「住み続けたいまちづくり」のような感じが良い（単に好みの問題ですみません）。
35	・太宰府市が提供している高齢者サービスの周知徹底をお願いしたい。 市民の誰もが、どこにどのようなサービスがあるのかを知っている市であってほしい。
36	・ボランティア活動が広がればと思います。 若い世代にそれが広がることで、次の世代につなげる。 お世話をしていた方が高齢者になったら「あの方は高齢者のお世話をしていた」と、それを見ていた若い世代が今度は私たちがお世話しよう！！と次に次にとつながる世の中になれば良いと思います。
37	・全ての人が不安や心配があれば気軽に相談できる機関が必要で、曜日などの制限がないことも必要ではないかと思います。 何か困ったら相談・対応し成果が出ることで「福祉のまちづくり」が可能となるのではと考えます。
38	・公共施設、店舗などのバリアフリー推進。バリアフリー施設の周知。
39	・今住んでいる市内の住民はほぼ全ての人が「ここに住み続けたい」と思っているはずである。私がこれまでに記載した内容を実現していただけたら、太宰府市の高齢者の方々は安心して生活できると思う。
40	・先の見えない介護をしている家族に給付を希望。仕事があったり、事業所などはきちんと仕事として介護支援することで評価され給与をもらえるが、家族は無償である。介護サービスを受けるのも利用費は発生するため、家族の身が配慮されないのは、心身的にも負担となっていく。
41	・ハード面、高齢者が安全に散歩できるように遊歩道を増やしてほしい。
42	・「福祉のまちづくり」をどの時期まで目指し進めていくのか。どう進めていくかではなく「福祉のまちづくり」を設定にし、それに向かって進んでいく方向の考え方にすれば、誰でもわかりやすいのではないかと。 ・できることを継続して、市役所の社会福祉協議会、地域包括支援センター、校区が共存し連携できないか、できていると思うが、地域住民からすると何も変化してない。 ・関係ないが、太宰府市役所が暗い。職員の笑顔や建物内の暗さがある。 ・福祉社会が進んでいるところはどこなのか、何が違う？どうすれば良い？という。 ・太宰府市でのプロジェクトチームを結成し、地域住民や行政など多方面からの人で集めたら良いのではないかと。
42	・もっと行政がや窓口が相談しやすく、わかりやすくすることで、住み続けたいと思う。
43	・市の職員の方が福祉への理解を深めていただき、地域に寄り添っていただきたい。
44	・相談しやすい環境を整えてほしい。土・日・17時以降なども行政も動いてほしい。
45	・若者に手厚く、高齢者に優しい、子どもたちが楽しく遊べる環境づくり。太宰府市の自慢ではなく、市民と自慢できる市になってほしい。
46	・保健・福祉に関しては、他市に比べ遅れているなと感じることが多々あります。 他市並でいいので、人や環境が整うと良いなと思います。
47	・買い物弱者に対する移動販売車の増加はとても良い取り組みでした。在宅医療の支援の広がり、在宅での看取り体制の充実など「ここに住み、ここで安心して最期まで」の福祉充実が必要だと感じます。
48	・太宰府市はゴミ出ししやすい環境なので助かっている。 ・古い団地では古い住民が決まりをつくって、新しく入った住民が輪に入りにくい環境をつくっているの、その辺を区長などに指導していただけると助かります。

NO.	内容
49	<ul style="list-style-type: none"> お仕着せにならずに意見は声を上げていかないといけないと思いました。反対意見も届かなければ、意味がないと今の国政をみて思います。
50	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者ゴミサポートはこれからも継続してもらいたい。 今後は定期的に安否確認のため、話し相手や見守りサービスの強化があれば良いと思います。
51	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が困っていることに対する説明会などの開催。
52	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険を利用しやすい取り組み。 介護保険以外でも、高齢者を支えることができる充実したサービス。
53	<ul style="list-style-type: none"> 現場の声、地域を声をよく聞いていただき、それを活かしていくようにしていただきたいと思う。
54	<ul style="list-style-type: none"> 地域と行政での支援がとても円滑にされていると思います。いつもありがとうございます。引き続き、安心して暮らすことができる体制を支援していただけたらと思います。
55	<ul style="list-style-type: none"> 医療職や介護職の地位の向上。収入の安定を図れることで、太宰府では介護職の支援が素晴らしい！や、介護職につきたい！と市民の方や周辺市町村、もっと言えば全国の方々から言っただけのような、「魅力ある太宰府の業種」となってほしい。当該施設においては、7年前と比べると、2回の介護報酬改定などに伴い、事業所の介護収入は毎月約20万円の減額となっている。当該事業所だけではなく、他の事業所においてもこのような状況であると聞いている。このような状況は事業縮小や賃金の低下を招き、このような状況が続くのであれば、スタッフのやる気や質、仕事へ求める充実感なども全体的に下がり、使命感や気持ちだけでは限界があるといった状況となる。太宰府市には、介護職等に対して、独自の報酬の増額支援などを行っていただけるような取り組みを期待する。その際、増額支援される報酬は、事業所に支給するのではなく、介護職員の方が直接受け取れるような仕組みづくりが必要と考える。
56	<ul style="list-style-type: none"> 特に独居の方へのアプローチ、安否確認がスムーズに行え、事故の予防、精神面の支援が確立できる。
57	<ul style="list-style-type: none"> 財政難の中、全ての世代に均等に！というのは難しいかもしれませんが、ほぼどの年齢層も満足いく行政サービスを受けることが理想だと思います。
58	<ul style="list-style-type: none"> 若者への支援例えば住宅、車の補助。 福岡市のように保育士に対する奨学金返済補助のようなことをしてほしい。 コロナ禍で職を失った人に介護の資格をとるための費用を負担する。
59	<ul style="list-style-type: none"> 出張コンビニなど、高齢者施設、公園など近所の方が集まりやすい場所に車で週に1回くらいでも良いですので、そのようなサービスがあったらと思います（近所にお店などないところ）。 1ヶ月に1回くらい地域で高齢者のクラブ、住民の集まる機会、集まる場があればと思います。
60	<ul style="list-style-type: none"> 徒歩で行ける買い物するところ。五条駅近くのいきいき情報センターの施設をオープンしてほしい。
61	<ul style="list-style-type: none"> このような調査票を求められ、本当に前へ進んでいるのかが一番気になるところです。また事業所内で回収とのことですが、コピーで配られるのは良いですが、封緘にて提出でないのがどうかと感じました。
62	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する現場は慢性的な人手不足のところが多いと思います。原因の一端として仕事内容に比べ収入の低さがあると思います。何らかの形で、支援をしていただけないでしょうか。
63	<ul style="list-style-type: none"> 施設間での情報（安全や危機管理、運営のやり方など）意見交流や学習の場をもっと増やしてほしい。また、徘徊などが懸念される利用者様の情報を共有し、市全体で見守りができる環境の充実。

NO.	内容
64	<ul style="list-style-type: none"> ・介護でもそうだが、何かと社協に委託し、社協に協力すると言っても、社福法人でないとか地域住民でとか言って加えてくれないし、やってると言っても、全く市民や私たちに見えてこない。市民には全くやさしくない市としか思えない。でもそこに住み、生活している私にとっても、何かしたいけど相手にされないのがくやしい。乱筆すみません。都合上スタッフとまとめて書かせてもらいました。
65	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険を使わなくて良くなった後も健康で生活できるサービスがあれば、安心して介護保険からの卒業ができると思います。社会保障費削減にもつながると思います。
66	<ul style="list-style-type: none"> ・太宰府市のホームページの介護保険関連の内容が薄いので、もっと分かりやすいものに変更した方がよいかと思われます。
67	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの構築と言われているが、どの位太宰府市ですすんでいるのかがわからない。